

落札データを活用した施策・事業評価に関する一考察

— 公共サービス・投資と地区別満足度等の相関、および周辺自治体との比較 —

松藤 宏二

国、地方自治体においては、市民生活のために様々な公共サービス・投資が提供、実施されており、民間企業への入札・落札という形での事業も多数存在する。本研究においては、インフラ（道路、公園、公共下水道）、学校環境等の7つの分野を取り上げ、マクロな視点ではあるが、①住民満足度が公共サービス・投資額（落札額）の多寡以上に都市指標（公共空間面積、公園面積など）との相関が大きいこと、②公共サービス・投資が整備率などの向上に寄与していること、③施策が着実に実行されていることを検証できた。結果のひとつとして、まちづくりにおける“空間”の重要性も示唆された。また、落札規模（額）という価格指標を用いたことにより、現在、入札公募案件で多数実施されている総合評価型入札に占める価格面の評価ウェイトも把握した。

今後、自治体の予算と落札データの有機的な連携により、市民のための公共サービス・投資の事業進捗率を評価し、自治体の目指すべきグランドデザインの達成へ向けた支援に繋がる道を探っていきたい。

キーワード：公共サービス 公共投資 入札 落札

1 はじめに

1.1 本研究の目的

私たちが日常生活を快適に、そして便利に送ることができるよう、国や地方自治体からは様々な市民サービスが提供されている。行政手続きなどの窓口サービスをはじめ、福祉、医療などに限らず、道路、公園等の公共工事も含めたサービスであり、自治体の基盤整備を図るものと言えよう。

しかしながら、こうした市民サービスを提供していく上では、行政による直接の提供だけでは出来ない分野、事業も多数存在する。その事業を提供するのが民間企業であるが、効率的で質の高いサービスが求められる。その事業の多くは“入札”という形で仕事の発注が行われている。毎年、日本全体では28兆円以上（2023年度）が官公需という形で仕事として出され、私たちの日本社会、地域社会が出来上がっている。“入札”と聞くと、談合など、まだまだグレーな側面も指摘され、市民にとっては縁遠い感覚が多いと思われるが、ポジティブな視点から見ると、国家・自治体の営みそのものであり、日本・地域の未来像、ビジョン形成そのものだと言えよう。なぜなら、入札は私たちの様々な生活インフラを支える根本を創出し、現状課題を解決する手段の一つであり、そして未来の市民が快適な生活が送れるよう未来への投資であるとも言えるからである。

このような公共サービスや投資は、市民にどのように受け入れられているのだろうか。具体的には、どの程度の満足度を得ているのか、また、その多寡が満足度にどのような影響を与えているのかを明らかにする必要がある。一般的には、公共サービスや投資が多ければ多いほど市民の満足度も高まると考えられがちだが、実際にはそれほど単純ではないかもしれない。この点を検証することは、昨今重要なキーワードとして語られる「選択と集中」や、政策の優先順位の明確化とも深く関わっており、政策形成において非常に重要であると言える。

また、そのほかに満足度を構成する要因はあるのかを検証すること、いわゆる都市指標としての整備率（市立

小・中学校のトイレの洋式化率、インターネット届出・申請手続き数の増加率など）の指標を用いてその向上の経年変化を検証することも非常に重要なことであると言えよう。

本研究ではこれらを明らかにし、三鷹市の計画策定や施策立案などの際の一助とすることを目的とする。

1.2 先行研究と本研究の位置づけ、分析方法

◆先行研究（住民満足度に関連するもの）

住民満足度に関する研究として、野田遊は、①パークスの研究（R.B.Parks 1984）においては、満足度という主観的指標と客観的指標（人口当たり警察職員数、対象地区における警察職員のパトロールの部隊数など）の関係において、たとえば人口当たり警察職員数が最終的な目的変数の主観的指標（満足度）に与える総合効果の係数はそれほど高くはなく、「影響を与えうる」という次元にとどまること、また、②ケリーとスウィンデルの研究（J.M. Kelly and D.Swindell 2022a）においては、客観的指標で示した行政サービスの質と市民の満足度の間には、統計学的に有意な関係を見出せないことを検証し、警察に関わる指標には、犠牲者発生件数といった統計書による客観的な指標よりも、地域の安全の程度など、市民自らが判断する状況認識の評価の方が、満足度の向上に直結しやすいという結果が明らかにされていること、さらに、③日本における山本（山本 2004）の研究でも、ごみ減量化や環境保全、医療、保育、農業振興、学校教育をはじめ 27 の分野のうち、客観的指標と主観的指標で符号が一致したものが 17 分野で 6 割程度しかなく、相関係数はわずか 0.02 しかないという状況であり、先行研究においては、満足度をはじめとした主観的指標は、客観的指標と全く関係しないわけではないが、その関係も決して強いものではなく、双方の指標は常時近似するものではないことが明らかになっている、と述べている（野田遊 2013: 38）。

また、中島とみこは、生活の質を追求する社会指標の流れは、自治体行政においても、地域住民の満足度調査にもとづいた指標を政策に反映させようとする「地域指標」開発への動きを生み出し、生活や福祉の状態について、行政からのアンケートに「満足度」という形で答えることが、自治体行政への住民参加のひとつの形として定着していくことになる、と述べている。その中で、道路に関する満足度の住民の判断と基準は、安全性、歩きやすさ、ゆとりの空間、都市景観など、単なる交通機能以外にその果たす役割は地域の空間に広がってきている、という斎藤達三の分析を紹介している。中島もこれらに適切な評価ができるのは日々道路を利用する住民であり、その主観に基づく総合的な判断は貴重な情報を提供することになり、政策評価指標体系における貴重な指標である、としているが、住民満足度を単独で用いることについては、「意識や満足度は極めて主観的心理的なものであり、それが社会指標体系の中に組み込まれるにしてもその限界は十分注意されるべきである」[国民生活審議会調査部会編 1974: 34]という指摘も紹介している（中島とみこ 2005）。

行政サービスと市民の満足度の規定要因を示した研究がある（野田 2011）。政府規模（人口）、サービスに関する要因（期待と比べたサービスの質、利用経験の有無、公務員の対応等）、地域・個人の属性（友人や親戚の多さ、地域への愛着等）と満足度の関係を論じ、地域への愛着や有効性感覚、住民間のつながり促進による満足度向上、属性による満足度の相違を実証的に検証している（野田 2011: 85）。地域への愛着や有効感を醸成する方策が、サービス全般の満足度といった住民の一般的感覚に好評価を与え、また、住民間の自発的なつながりの促進は、特に对人的サービスにおいて満足度を高める方策となること、属性による満足度の相違については、学歴が高い人の教育満足度が負、女性の子育て支援サービスの満足度が正、持家の人の防犯満足度が正というように、属性ごとに関連分野で満足度が変化することを確認している。

一方で、野田は三重県『平成 23 年度一万人アンケート報告書』（2011 年 11 月）における満足度に関する項目より、満足度と客観的指標の対応関係がある程度明瞭な分野のみを対象とし、たとえば、「きれいな空気」に対する満足度には、硫黄酸化物、窒素酸化物、浮遊粒子状物質の状況、「川や海の水質」に対する満足度には、河

川（BOD）や海域（COD）の環境基準達成状況、「道路の整備」に対する満足度には、国道・県道・市町村道の道路改良率や道路舗装率を対応させて相関分析を行い、こうしたアウトカムに近い客観的な指標であれば、ある程度高い相関を見出すことはできるとしている（野田 2013: 42）。

以上のことから、満足度という主観的指標と客観的指標に強い相関は見られないものの、よりアウトカムに近い客観的指標であればその限界は十分注意されるべきであるが、ある程度の相関は見出すことはできるものと考えることができよう。

◆先行研究（入札・落札データに関連するもの）

入札・落札データ面においては、本研究は落札データを用いての研究であるが、この落札データに焦点を当てた研究がある（中邨良樹 2022）。中邨は日本全国の発注者の落札情報を使用し、落札価格の分析、都道府県・地域別の基本情報（選挙回数、土砂災害、宿泊者数、博物館・美術館等の公的施設数、病院・診療所数など）との関係、落札データの案件名のテキストマイニング分析、競争力分析を行い、公平・公正な入札制度になるための入札・落札ポータルサイトの情報発信の将来像（予算情報とのリンク、落札率の予測など）について述べている。

公共調達における品質と価格との関係についての研究（西川雅史 2022）では、相模原市の 1,302 件の落札データを用いて、公共調達における価格と品質のトレードオフ関係、つまり「高品質の財は高価格である」という関係性が成立せず、指名競争に代わって一般競争を使用すれば、品質を維持しつつ価格を 2.5%程度引き下げることができることを示している。

◆本研究の位置づけ

本研究は、現実に自治体において実施されている入札公告から落札の過程を経たリアルな落札額データ、つまり近年は価格評価を主体とした一般競争入札が多くの入札で導入されており、先行研究でも見たような品質を維持した望ましいレベルの落札額データを用い、これをよりアウトカムに近い客観的な公共サービス・投資額と捉え、その多寡と満足度との相関や都市指標の経年変化を検証する試みである。リアルな落札額データはコストダウン、VE（Value Engineering）などの企業努力を含んだものであり、適切なコストでもたらされる最大限の行政施策効果を検証する上で非常に価値のあるデータと思われる。現在、建設土木工事などにおいては価格だけではなく ICT を活用した工事などの技術提案も加味した総合評価落札方式があるが、このような方式はまさに企業努力を評価するものであり、技術革新の潮流を反映したものであると言える。

具体的には、市民生活に関わる様々な分野の中で、住民視点という目線での分野（インフラとしての道路・公園・下水道や学校環境など）を取り上げ、どの分野に、どのくらいの額（公共サービス・投資）が投下されているのか、について落札額として集計した。そして、その多寡と“満足度”という住民意識や都市指標としての整備率を用いてその相関を検証している点で新たな視座からの研究と言えよう。

◆分析方法

公共サービス・投資規模を把握する方法として落札データ（入札・落札情報ポータルサイト「入札王」¹⁾（株式会社ノー運営）を用いて、三鷹市、および近隣3市（調布市、府中市、武蔵野市）の過去6年間の推移を把握しその現状分析を行う。公共サービス・投資は多様な分野に亘るため、分野別に分類する方法として KHCoder²⁾を用いて、落札案件名に対する形態素解析を行い、分野別の傾向を把握する。

このようにして抽出された分野別落札データ（キーワード）と 2018 年に今後の基本計画を進めるにあたって策定された『三鷹を考える論点データ集 2018』に位置付けられている施策とを比較して重なる分野を「重点分野」と定義し、実施されてきた基本計画・施策、公共サービス・投資の多寡、及びその相関・効果を検証する。

相関・効果を測定するメルクマールとしては、まずは、公共サービス・投資の多寡と基本計画などの策定前に実施される「住民満足度調査」の“（主に住みやすさの）満足度”の大小と直接的に関係があるのか否か（サービス・投資額が大きいほど満足度も大きい等）、さらに、公共サービス・投資の程度（金額）以外にも満足度に影

響を与え、先行研究でも指摘されている満足度の質的な判断材料にも繋がると思われる都市指標としての公共空間面積（率）、道路ポイント（南北・東西の広幅員幹線道路の有無を換算、安全性へ繋がる）、人口密度（空間という意識へ繋がる）、交通量（安全性へ繋がる）などの要素も取り入れ相関分析を行う。つまり、公共サービス・投資規模のほかに、他の要因も満足度と相関関係を持つのかについてマクロな視点から探索的研究を行う。

分析対象地区としては、特に落札データで地区の分類が比較的容易な道路、公園等のインフラに対するサービス・投資について、三鷹市全域を 11 地区に分け、地区ごとの公共サービス・投資額を算出し相関を検証する。

＝「地区別住民満足度調査」の満足度との相関をみる都市指標＝

- ◆地区別公共サービス・投資額
- ◆地区別公共空間面積（率）
- ◆地区人口（密度）
- ◆地区の交通量（定点調査）
- ◆地区の公園面積

一方で、公共サービス・投資額の地区別分類が難しいサービスについては、三鷹市全体の普及率、整備率などの指標を用いて、経年変化を整理する。その変化率の増加は施策が着実に実行されているエビデンスとなるものである。

1.3 対象データについて

落札データの収集方法は、前述した入札・落札情報ポータルサイト「入札王」での情報検索、及び CSV ダウンロードの方法で行い、この CSV 電子データを使用する。ただし、落札データの公開時期は自治体によってまちまちであり、また、すべての情報が Web（ホームページ）上に公開される訳ではない等、いくつかの制約があるため、2024 年 6 月 22 日現在で当ポータルサイトで収集・登録しているデータを元にする。ポータルサイトのデータは、自治体の Web（ホームページ）上に公開された落札データをデータベース化している。

対象とするデータは 2018 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの 6 年間、4 市（三鷹市、調布市、府中市、武蔵野市）を合わせた約 18,000 件、内訳は三鷹市約 2,400 件、調布市約 8,400 件、府中市約 5,100 件、武蔵野市約 2,300 件の電子化された落札データである。三鷹市のデータ状況を図 1 に示す。データの列は、表 1 に示すように「問い合わせ番号」「発注機関」「発注地域」「件名」「開札日」「落札会社名」「落札価格」「予定価格」「応札企業」「リンク（情報公開ページへの）」から構成されている。この中で「落札価格」を公共サービス・投資額として捉える。また、先述したように道路、公園整備に対する満足度では地区別評価の相関を検証するため、三鷹市の落札データで、「件名」あるいは「リンク」先の情報から履行場所を特定し、可能な範囲で三鷹市の 11 地区（下連雀、牟礼、井の頭、大沢、上連雀、井口、深大寺、中原、北野、新川、野崎）に分類し、「地区」、及び「年度」の列を追加した。

なお、満足度調査については、各自治体の基本構想や基本計画策定前に実施される満足度調査（各自治体の HP 上で公開されている各調査書（PDF））を用いた。公共サービス・投資額以外の指標については、例えば公共空間面積、人口、交通量、公園面積なども満足度に影響を与える可能性のあるものと捉え、『三鷹市統計データ集 2023』などの統計書より整理した。

三鷹市の全落札データ（過去6年間）

Web上に公開されない
落札データ

Web上での公開落札データ
(約2,400件)

(1) インフラ（道路）整備 落札データ
キーワード：“道路” “市道” “都道” で抽出

(2) 緑地空間（公園）の整備 落札データ
キーワード：“公園” で抽出

(3) インフラ（下水道）整備 落札データ
キーワード：“下水道” “東部水再生センター” で抽出

(4) 学校環境の整備 落札データ
キーワード：“トイレ” “空調” で抽出

(5) 情報環境の整備 落札データ
キーワード：“行政手続” で抽出

(6) 健康づくりの推進 落札データ
キーワード：“健康づくり” で抽出

(7) コミュニティ環境 落札データ
キーワード：“コミュニティ” で抽出

その他

図1 落札データ抽出の考え方

表 1 落札データ例（三鷹市）

問い合わせ	発注機関	発注地	件名	履行場所	地区	開札日	年度	落札会社	落札価格	予定価格	応札企業	リンク
R102230	その他東京都町村/三鷹市	東京都	都市公園等管理業務(その1)【三鷹市】			2018/4/1	2018	株式会社	7,851,600	8187180		
R102230	その他東京都町村/三鷹市	東京都	都市公園等管理業務(その2)【三鷹市】			2018/4/1	2018	株式会社	13,024,800	13671460		https://w
R102230	その他東京都町村/三鷹市	東京都	都市公園等管理業務(その3)【三鷹市】			2018/4/1	2018	株式会社	9,720,000	9845199		https://w
R102230	その他東京都町村/三鷹市	東京都	都市公園等管理業務(その4)【三鷹市】			2018/4/1	2018	株式会社	6,156,000	6310073		https://w
R102230	その他東京都町村/三鷹市	東京都	都市公園等管理業務(その5)【三鷹市】			2018/4/1	2018	株式会社	15,174,000	15472980		https://w
R102230	その他東京都町村/三鷹市	東京都	都市公園等管理業務(その6)【三鷹市】			2018/4/1	2018	株式会社	11,696,400	11950104		https://w
R102230	その他東京都町村/三鷹市	東京都	都市公園等管理業務(その7)【三鷹市】			2018/4/1	2018	有限会社	10,346,400	10639521		https://w
R102229	その他東京都町村/三鷹市	東京都	都市公園等便所清掃業務【三鷹市】			2018/4/1	2018	株式会社	3,510,000	3518588		https://w
R103221	その他東京都町村/三鷹市	東京都	下連雀五丁目公園(仮称)整備工事【三鷹市】	東京都三鷹市下連雀五丁目地内	下連雀	2018/5/28	2018	株式会社	53,000,000	57888000	〔応札企業〕	https://w
R103223	その他東京都町村/三鷹市	東京都	大沢の里公園整備工事(第3期)【三鷹市】	東京都三鷹市大沢二丁目地内	大沢	2018/5/29	2018	株式会社	36,200,000	39096000	〔応札企業〕	https://w
R105490	その他東京都町村/三鷹市	東京都	新川あおやぎ公園舗装改修工事【三鷹市】	東京都三鷹市新川一丁目地内	新川	2018/8/20	2018	株式会社	6,500,000	7157160	〔応札企業〕	https://w
R110842	その他東京都町村/三鷹市	東京都	野崎三丁目公園整備工事【三鷹市】		野崎	2018/10/9	2018	株式会社	8,208,000	8215560		https://w
R116359	その他東京都町村/三鷹市	東京都	中仙川児童公園拡張整備工事【三鷹市】	東京都三鷹市中原二丁目地内	中原	2018/12/20	2018	株式会社	8,600,000	9465120	〔応札企業〕	https://w

出典：入札・落札情報ポータルサイト「入札王」（以下ポータルサイト）からダウンロード CSV

2 公共サービス・投資の現状

2.1 公共サービス・投資額の現状、推移

2.1.1 エリア、調達元別における状況

本研究の目的でも述べたように、国や地方自治体からは様々な市民サービスが提供されている。窓口サービスをはじめ、福祉、医療、そして道路、公園等の公共工事も含めたサービスであり、これらは市民の生活基盤の整備を図るものである。こうしたサービス・工事は民間企業へ委託され、そこから提供されるものもあり、効率的で質の高いサービスが求められ、その多くは“入札”から“落札”という過程を経て行われている。

まず、こうした公共サービス・投資額がどれくらいあるのか、俯瞰してみたい。全国、エリア別、調達元別に2022年の落札状況を示したものが表2である。エリア別には全国34兆円、関東エリア15兆円、東京都エリア9兆円、調達元別には東京都1兆6,000億円、東京23区5,100億円、東京都全市町村1,400億円、三鷹市91億円、その他（中央省庁・独立行政法人等）6兆7,400億円となっている。

表 2 落札額（公共サービス・投資額：2022 年）

エリア	全国	34兆円
	関東	15兆円
	東京都	9兆円
調達機関 （東京都エリア）	東京都庁	1兆6,000億円
	東京特別区	5,100億円
	東京都下市町村	1,400億円
	三鷹市	91億円
	その他（中央省庁、独立行政法人等）	6兆7,400億円
	合計	9兆円

出典：『入札白書 2023 年』一般社団法人入札総合研究所

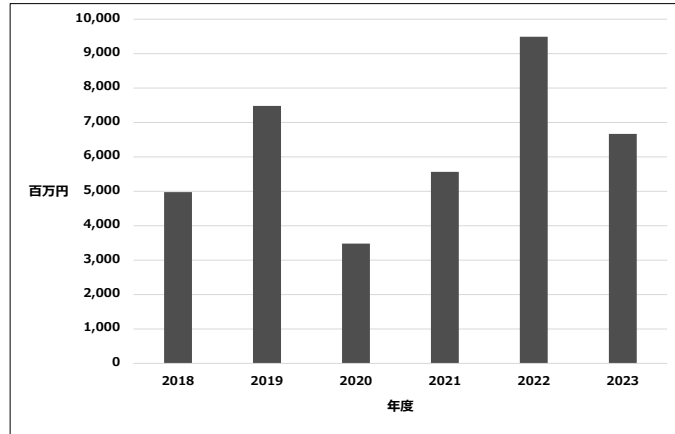
2.1.2 三鷹市における状況

2018 年度～2023 年度はコロナ禍という期間も存在すること、また、近年多発する自然災害に対する緊急の予算措置なども実施されること等から、落札額の経年変化を把握しておくことは重要なことと言える。三鷹市における過去 6 年間の落札額を示したものが表 3、図 2 である。約 2,400 件の落札データより構成されている。毎年度約 40 億～90 億円、平均約 60 億円の公共サービス・投資が入札、落札を経て行われていることが窺える。2020 年度はコロナ禍の影響で大きく減少したものとされる。

表 3 三鷹市の公共サービス・投資の推移

年度	投資額（落札額：百万円）
2018	4,979
2019	7,482
2020	3,484
2021	5,567
2022	9,493
2023	6,670
総計	37,676

出典：ポータルサイトから集計



出典：ポータルサイトから集計

図2 三鷹市の公共サービス・投資額の推移

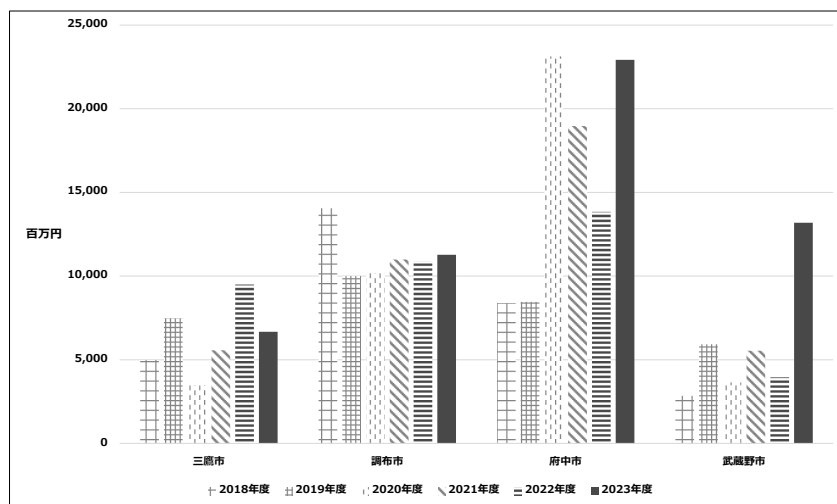
2.1.3 三鷹市と周辺自治体の状況

三鷹市における公共サービス・投資を分析するうえで、地域全体の発展や課題解決を目指す視点からは周辺自治体の状況を把握することも重要なことであると言えよう。三鷹市、及びその周辺自治体（調布市、府中市、武蔵野市）とを比較し、その公共サービス・投資額を示したものが表4、図3である。6年間の合計は、府中市95,711百万円、調布市67,383百万円、三鷹市37,676百万円、武蔵野市35,090百万円の順となっている。この規模は、表5に示す自治体の財政規模（普通会計当初予算）とほぼ一致していると言えよう。

表4 三鷹市、及び周辺自治体の公共サービス・投資額の推移、比較

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	総計（単位：百万円）
三鷹市	4,979	7,482	3,484	5,567	9,493	6,670	37,676
調布市	14,055	10,000	10,186	10,994	10,872	11,276	67,383
府中市	8,392	8,461	23,124	18,968	13,844	22,922	95,711
武蔵野市	2,839	5,927	3,650	5,539	3,947	13,188	35,090
総計	30,265	31,871	40,444	41,067	38,156	54,056	235,860

出典：ポータルサイトから集計



出典：ポータルサイトから集計

図3 三鷹市、及び周辺自治体の公共サービス・投資額の推移、比較

表5 市町村別普通会計当初予算一覧表（令和6年度当初予算）

(単位：千円、%)

区 分	当 初 予 算 額		増 減 (A－B) C	対 前 年 度 増 減 率	
	令和6年度 A	令和5年度 B		令和6年度 C/B	令和5年度
八 王 子 市	227,175,394	217,281,857	9,893,537	4.6	4.3
立 川 市	86,372,000	85,392,000	980,000	1.1	1.6
武 蔵 野 市	81,469,356	72,868,653	8,600,703	11.8	3.3
三 鷹 市	83,187,972	78,874,409	4,313,563	5.5	5.1
青 梅 市	58,876,855	54,794,791	4,082,064	7.4	2.6
府 中 市	128,058,504	118,931,812	9,126,692	7.7	△ 1.8
昭 島 市	51,611,536	50,982,302	629,234	1.2	10.2
調 布 市	104,940,965	98,394,639	6,546,326	6.7	4.8

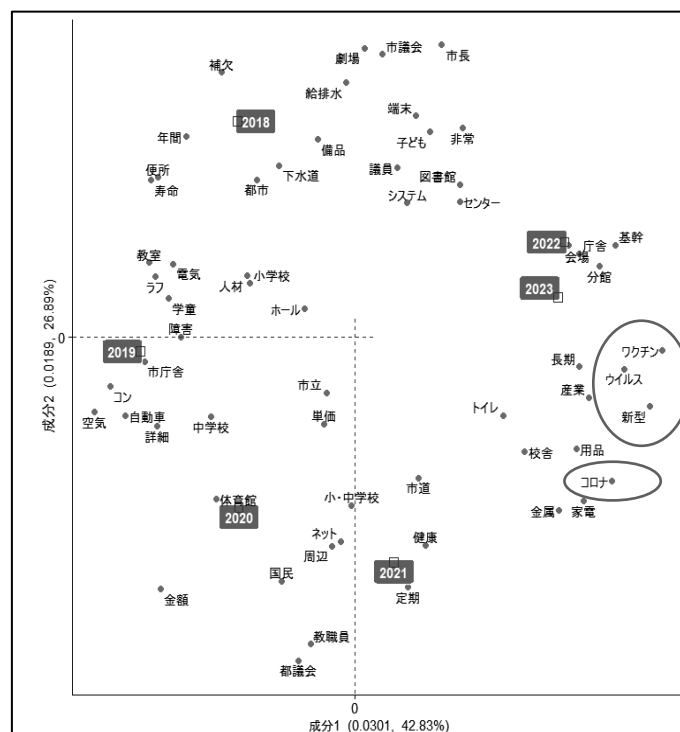
出典：東京都総務局行政部市町村課（2024）

2.2 公共サービス・投資メニューの特徴（対応分析）

2.2.1 年度別の特徴

落札データの案件名を対象に KHCoder による対応分析を行い、年度別のマクロな特徴をみる。対応分析は年度（属性）の外部変数との対応を明らかにする手法、つまりクロス集計を視覚化する手法である。点線の交わっている場所を原点と呼ぶが、ここに近い位置にあるワードはあまり特徴がないワード、逆に原点から遠くにあるワードほど、何らかの強い特徴があるワードである。

図4に示すように、年度ごとの特徴的なキーワードをみると、特に2022年度、2023年度に、ワクチン開発後の新型コロナウイルスワクチン接種に関する業務が調達されていることが窺える。

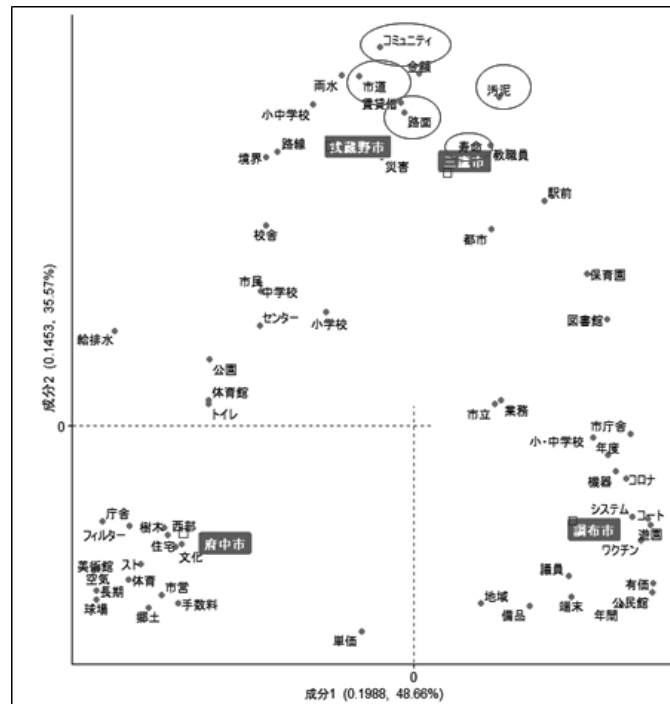


出典：KHCoder による対応分析

図4 対応分析（年度別）

2.2.2 自治体別の特徴

2.2.1 と同様な手法で、自治体別の特徴を示したものが図 5 である。三鷹市については、主に新しいコミュニティを醸成する場（媒体）としてのコミュニティセンターの改修・更新工事、及び、市民の生活環境の改善に繋がる市道・路面整備、及び公共下水道の長寿命化事業などが特徴として表れていることがわかる。3.1 以降で述べるが、いずれも社会課題に対応した対応がなされていることが窺える。



出典：KHCoder による対応分析

図5 対応分析（自治体別）

2.3 三鷹市における具体的な公共サービス・投資メニューの外観

2.3.1 主要キーワード別の共起ネットワーク分析

さて、過去6年間に於いて、三鷹市に於いて具体的にどのような公共サービス・投資が行われてきたのでしょうか。2.2.2 に於いて特徴的なメニューを近隣自治体との比較として明らかにしたが、この対応分析に於いて KHCoder 共起ネットワークを使用し、分析する。共起ネットワーク分析とは、あるテキストデータセットに於いて、よく一緒に使用されている語同士を線で結んで可視化する手法であり、特定の単語がどの程度“共起”して出現しているかを調べる手法である。単語の出現頻度、単語間の関連性を視覚化でき、直感的に把握できる手法である。

三鷹市においては、先にも述べたように2018年に『第4次三鷹市基本計画』の第2次改定（令和元年度～4年度）に向けて、『三鷹を考える論点データ集2018』（以下、『論点集』）が発行されている。社会経済情勢が変化中、現状課題だけではなく、新たな将来課題を認識し、それらに関する施策を検討し、持続可能な自治体経営を進めていくために、単なる思いつきや感覚的発想ではなく、明確な証拠を元に政策形成を行うEBPM（Evidence Based Policy Making）により策定されたものである。

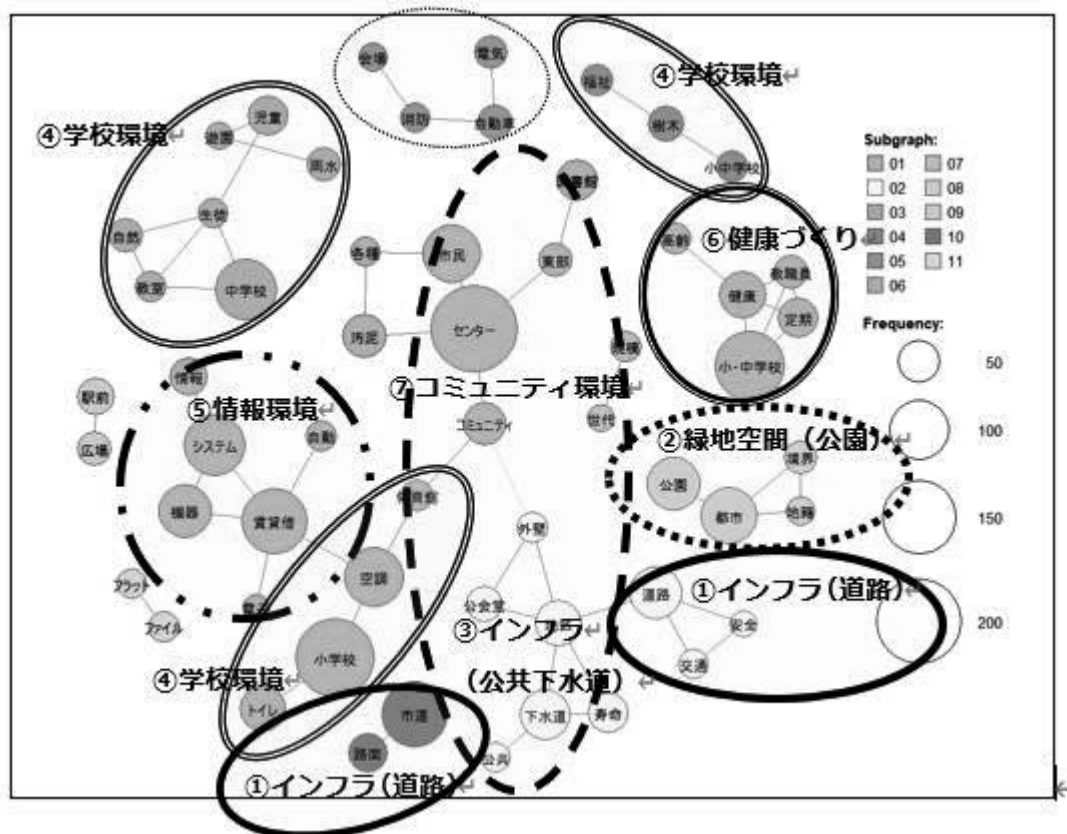
KHCoder による分析から抽出された施策キーワードは、この『論点集』（三鷹市 2018）に位置づけられている。

共起ネットワーク（出現数による語の取捨選択：最小出現数 20、品詞による語の取捨選択：名詞、形容動詞、描画する共起関係（edge）の選択：上位 60）で主要なものをみると、図 6 のような分野別キーワード、及び関連範囲が抽出される。これらの中から 7 つの分野を取り上げ、これまでの公共サービス・投資額の規模（多寡）と住民満足度との相関関係、さらに公共サービス・投資額の規模だけではなく他の要素（公共空間面積、人口、交通量等の都市指標）との相関関係についても分析することとする。

<7つの分野>

- ① インフラ（道路）整備
- ② 緑地空間（公園）の整備
- ③ インフラ（公共下水道）整備
- ④ 学校環境の整備
- ⑤ 情報環境の整備
- ⑥ 健康づくりの推進
- ⑦ コミュニティ環境の整備

その他、大気汚染物質や温室効果ガスを含む排出ガスが発生しない、環境に配慮した電気自動車などの分野も抽出される。



出典：KHCoder 共起ネットワークから作成

図6 共起ネットワークから浮かび上がる重要ワード群
(三鷹市における公共サービス・投資の主要分野)

2.3.2 計画と実際の比較

計画と実際（落札データ）をみるのも興味深い。『第5次三鷹市基本計画』における頻出キーワードをみると、表6に示すように、やはり“市民”、“事業”などの市政全体に関わるワードが上位を占めるものの、実際の落札データでは、入札公告から落札に繋がるより具体化された落札案件名となっており、具体的な事業名、物品名に近いキーワードが上位に上がってきている。施策は計画から実施への流れとなるが、より具現化された計画が実行に移されていることが窺える。

表6 落札情報と基本計画でのキーワード順位

名詞	落札情報			第5次三鷹市基本計画		順位差（基本計画－落札情報） ↑は落札情報で上位へ
	順位	出現回数	基本計画に有	順位	出現回数	
センター	1	213	○	22	44	↑ 21
小学校	2	175	○	52	7	↑ 50
小・中学校	3	135	○	56	3	↑ 53
市道	4	120	○	56	3	↑ 52
賃貸借	4	120	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
中学校	5	107	○	57	2	↑ 52
システム	6	104	○	39	20	↑ 33
空調	7	98	○	58	1	↑ 51
市民	8	96	○	3	153	5
都市	9	89	○	16	54	↑ 7
機器	10	80	○	57	2	↑ 47
公園	11	78	○	30	33	↑ 19
道路	12	76	○	24	41	↑ 12
下水道	13	69	○	45	14	↑ 32
トイレ	14	60	○	54	5	↑ 40
地区	14	60	○	27	37	↑ 13
金額	15	59	○	58	1	↑ 43
汚泥	16	55	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
コミュニティ	17	51	○	20	46	↑ 3
災害	18	50	○	25	39	↑ 7
図書館	19	46	○	28	36	↑ 9
定期	20	45	○	57	2	↑ 37
児童	21	44	○	32	29	↑ 11
寿命	21	44	○	54	5	↑ 33
路面	22	43	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
保育園	23	42	○	48	11	↑ 25
情報	24	40	○	5	77	19
駅前	25	38	○	46	13	↑ 21
事業	25	38	○	1	271	24
公会堂	26	35	○	56	3	↑ 30
樹木	26	35	○	55	4	↑ 29
自動車	27	33	○	58	1	↑ 31
雨水	28	32	○	51	8	↑ 23
教職員	28	32	○	54	5	↑ 26
東部	28	32	○	53	6	↑ 25
広場	29	31	○	55	4	↑ 26
境界	30	30	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
電気	30	30	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

出典：KHCoder 共起ネットワーク

2.3.3 『三鷹を考える論点データ集 2018』と分野別主要キーワードの関連

前々項(2.3.1)で抽出したワード群を個別に示す。

① インフラ（道路）整備

落札情報から抽出される主要なキーワードは、「道路・市道」＋「交通、安全、路面」である。

『論点集』（三鷹市 2018）においては、安全で快適な道路の整備として、

- ◆歩行者が安心して歩けるみちづくり
- ◆自転車が関与する交通事故の減少

が重点施策として位置付けられている。共起ネットワークにおいても、道路・市道をメインに、関連の深いキーワードとして“安全”、“交通”、そしてスムーズに安全な交通・通行に繋がると思われる“路面整備”等も多数抽出される。

② 緑地空間（公園）の整備

落札情報から抽出される主要なキーワードは、「公園」＋「都市」である。

『論点集』（三鷹市 2018）においては、緑と水の快適空間の創造として、

- ◆市民に親しまれる魅力ある公園づくりの実現
- ◆市民との協働による緑化の推進

が重点施策として位置付けられている。共起ネットワークにおいても、都市公園の整備工事、管理業務が多数抽出される。最も多いのは公園管理業務であるが、これは主に公園清掃、剪定業務と思われる。望ましい公園の姿としては「自由に遊べる公園」が求められているが、これには清掃、剪定業務などを実施することによる快適に遊べる公園づくりも含まれると思われる。また、公園拡張整備、遊具等の整備も多い。

③ インフラ（公共下水道）整備

落札情報から抽出される主要なキーワードは、「公共下水道」＋「寿命、汚泥、東部水再生センター」である。

『論点集』（三鷹市 2018）においては、水循環の促進として、

- ◆都市型水害への対策
- ◆下水道への負荷の軽減

が重点施策として位置付けられている。共起ネットワークにおいても、特に後者の中身として、公共下水道の管路施設の長寿命化対策工事、及び東部水再生センターへの流入水量の増加に伴う負担軽減のための老朽化工事が多数抽出される。

④ 学校環境の整備

落札情報から抽出される主要なキーワードは、「小学校」＋「トイレ、空調、体育館」である。

『論点集』（三鷹市 2018）においては、安全で開かれた学校環境の整備として、

- ◆安全で快適な学校環境の整備
- ◆放課後の居場所づくりの充実

が重点施策として位置付けられている。共起ネットワークからは、特に前者に関連する小中学校のトイレ整備、体育館の空調設備の整備が多数抽出される。

⑤ 情報環境の整備

落札情報から抽出される主要なキーワードは、「システム」＋「情報、機器」である。

『論点集』（三鷹市 2018）においては、情報環境の整備として、

- ◆行政手続きのオンライン化の促進
- ◆市政情報の提供の充実

が重点施策として位置付けられている。共起ネットワークにおいても、情報基盤システムの整備・運営業務、LGWAN、庁内・市民ネットワークシステムに関連する情報が多数抽出される。

⑥ 健康づくりの推進

落札情報から抽出される主要なキーワードは、「健康」＋「小中学校、教職員、高齢、定期」である。

『論点集』（三鷹市 2018）においては、健康づくりの推進として、

◆いつもまでも健康で過ごすための生涯にわたる健康づくり

◆妊娠期からの切れ目のない支援の推進

が重点施策として位置付けられている。共起ネットワークからは、特に前者に関連する小中学校の教職員の定期健診、及び高齢者の予防接種に関連する情報が多数抽出される。

⑦ コミュニティ環境の整備

落札情報から抽出される主要なキーワードは、「コミュニティ」＋「センター」である。

『論点集』（三鷹市 2018）においては、コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進として、

◆コミュニティ創生による地域づくりの推進

◆多世代・多職種の市民参加による協働の深化

が重点施策として位置付けられている。共起ネットワークは、コミュニティセンターの施設自体の改修工事、更新工事が多数抽出される。

いずれも、『論点集』（三鷹市 2018）に位置付けられている施策が着実に実行されてきていることが窺える。

3 公共サービス・投資と満足度との相関分析、及び都市指標の経年変化分析

前項で、『論点集』（三鷹市 2018）を踏まえた公共サービス・投資が行われ、落札データへと繋がっていることが確認できた。『第 4 次三鷹市基本計画』はコロナ禍のため 2023 年度まで延長され、2024 年度からは基本構想と同時に見直され策定された『第 5 次三鷹市基本計画』が進められている。

図 7 に示すように、2018 年度～2023 年度にかけては、『論点集』（三鷹市 2018）に基づいた継続的な公共サービス・投資が実行、積み上げられてきているが、そのサービス・投資額の多寡と 2023 年度に実施された満足度調査の満足度に相関があるのか、あるいはその他の要素も満足度に影響を与えるのか、先述の①インフラ（道路）整備～⑦コミュニティ環境の整備に分けて検証する。本研究においては、三鷹市を 11 地区に分けて分析することを主眼としているが、①～⑦のうち満足度調査の質問項目で地区別分類が比較的容易な①、②については地区別の相関関係を中心に、そうでない③～⑦については経年変化を中心に検証する。また、『第 5 次三鷹市基本計画』で位置付けられている主要事業も整理する。

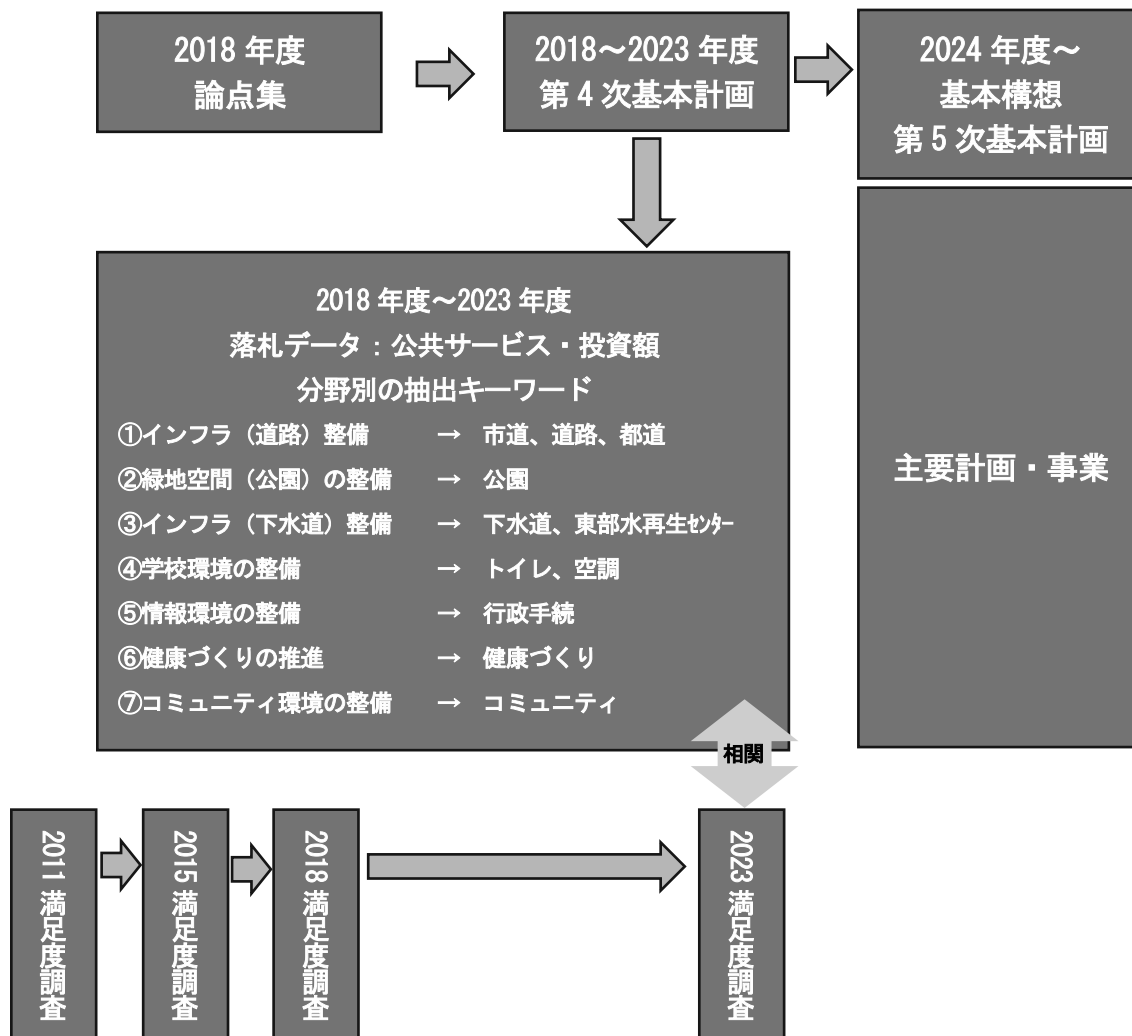


図 7 論点集（三鷹市 2018）、基本計画、落札データ、満足度調査の関係

3.1 インフラ（道路）の整備

3.1.1 整備状況と計画

『論点集』（三鷹市 2018）に位置付けられた重点施策を実現するために、図 8、表 7 に示すように、これまでも東京都等と連携を図りながら、都市計画道路の用地取得や特定道路³⁾の整備を進め、整備率の拡大が図られてきた。特定道路は、建築基準法での建築物の容積率の緩和、バリアフリー、歩行者空間の整備など、都市空間の形成に大きな影響を与えるものである。“空間” はひとつのキーワードと言えそうである。



出典：三鷹市都市再生部 まちづくり推進課（2024）

図8 都市計画道路の優先整備路線及び整備状況（2024年4月1日現在）

表7 都市計画道路の優先整備路線及び整備状況（2024年4月1日現在）

第四次事業化計画 優先整備路線						
番号	路線名	区 間	延 長	幅員	都市計画決定 告示年月日	
東京都施行						
都91	三鷹3・4・7	三鷹3・4・12～三鷹3・4・14付近	1,020m	16m	昭和37年7月26日	建設省告示第1780号
都92	三鷹3・4・7	三鷹3・4・17付近～三鷹3・4・18付近	1,000m	16m	昭和37年7月26日	建設省告示第1780号
都93	三鷹3・4・12	三鷹3・2・2～三鷹3・4・7	800m	16m	昭和37年7月26日	建設省告示第1780号
					昭和41年7月30日	建設省告示第2433号 一部変更
都94	三鷹3・4・12	三鷹3・4・14～三鷹3・4・13	860m	16m	昭和37年7月26日	建設省告示第1780号
					昭和41年7月30日	建設省告示第2433号 一部変更
三鷹市施行						
市町14	三鷹3・4・9	三鷹3・4・17～三鷹3・2・6	750m	16m	昭和37年7月26日	建設省告示第1780号
市町15	三鷹3・4・13	三鷹3・4・7～連雀通り	70m	16m	昭和37年7月26日	建設省告示第1780号
事業中(街:街路事業、交:交通安全施設事業、み:第三次みちまち事業、三:首都圏三環状道路事業)の路線						
番号	路線名	区 間	延 長	幅 員	事業施行期間	
東京都施行						
1	三鷹3・2・2	区部境～外環の2付近	530m	30～36m	平成16.5.24～平成24.3.31(街)	
2	三鷹3・2・2	外環の2付近～三鷹3・4・12	500m	30～36m	平成12.3.27～平成21.3.31(街)	
4	三鷹3・2・6	武蔵野市境～三鷹3・2・2	2,830m	36m	平成14.7.3～令和9.3.31(街)	
5	三鷹3・4・7	下連雀七丁目付近～三鷹3・4・14付近	780m	16m	平成23.12.1～令和12.3.31(街)	
7	三鷹3・4・12	吉祥寺通り～三鷹3・2・2	840m	16m	平成24.6.15～令和12.3.31(街)	
8	三鷹3・4・3	三鷹3・4・12～外環中央JCT(仮称)	140m	16m	平成25.9.26～令和8.3.31(街)	
9	三鷹3・4・11	三鷹3・4・12～外環中央JCT(仮称)	150m	16.5m	平成25.9.26～令和8.3.31(街)	
10	三鷹3・4・11	外環中央JCT(仮称)～調布市境	270m	16～16.5m	平成28.2.17～令和11.3.31(街)	
11	三鷹3・4・12	吉祥寺通り～外環中央JCT(仮称)	240m	16m	平成25.9.26～令和8.3.31(街)	
12	三鷹3・4・14	三鷹3・4・7付近～三鷹3・4・5付近	220m	16m	平成29.10.18～令和10.3.31(交)	
13	三鷹3・4・3	世田谷区境～北野一丁目	270m	16m	令和3.4.23～令和13.3.31(街)	
三鷹市施行						
3	三鷹3・4・13	連雀通り～人見街道	466m	16m	平成15.2.5～令和7.3.31(街)	
6	三鷹3・4・7	三鷹市八幡前～下連雀七丁目付近	235m	16m	平成21.4.1～(み)	
国土交通大臣、東日本高速道路株式会社及び中日本高速道路株式会社施行						
14	都市高速道路 外郭環状線	世田谷区鎌田二丁目～練馬区大泉町一丁目	18,060m	30～98m	平成26.3.28～令和13.3.31(三)	

出典：三鷹市都市再生部 まちづくり推進課（2024）

3.1.2 投資と満足度・都市指標との相関分析

道路整備においては、幹線道路や安全性へ配慮した道路の存在など、地区ごとに大きく評価は分かれると思われる。満足度調査（三鷹市 2023）では 11 地区（公共サービス・投資額の大きい順：下連雀・牟礼・井の頭・大沢・上連雀・井口・深大寺・中原・北野・新川・野崎）のクロス集計で各地区の満足度が示されている。

また、キーワード（“道路” “市道” “都道”）で抽出した落札データの案件名や事業内容から地区を特定し、地区別のインフラ（道路）整備への投資額を示したものが表 8 であり、6 年間の合計で 2,240 百万円となっている。地区別に特定できないものは特定できたデータの比率を元に案分した。最も多いのは下連雀地区で、この多くは基本計画でも主要事業と位置付けられている都市計画道路 3・4・7 号（連雀通り）の整備、次いで多い牟礼地区は都市計画道路 3・4・13 号（牟礼）の整備であり、継続して投下されてきていることが窺える。

表 8 道路整備への地区別投資額（2018 年度～2023 年度）

地区	①落札額（百万円）	構成比	②地区特定ができない分	①＋②落札額（百万円）
下連雀	491	26.1%	94	585
牟礼	390	20.7%	75	465
井の頭	223	11.8%	43	265
大沢	221	11.8%	42	263
上連雀	172	9.1%	33	205
井口	123	6.5%	23	146
深大寺	67	3.6%	13	80
中原	63	3.3%	12	75
北野	56	3.0%	11	67
新川	54	2.9%	10	65
野崎	21	1.1%	4	26
地区特定ができない分	360			
計	2,240			2,240

出典：ポータルサイトから集計

この過去 6 年分の地区別の投資額と道路の通行のしやすさについての市民満足度の相関をみたものが表 9 である。被説明変数を評価（そう思う）、説明変数を投資額とした単回帰分析であるが、相関係数は高いとはいえず、投資額そのものが直接に満足度評価へ影響を与えているとはいえない。事業中のプロジェクトも多く、完了に近づいた段階で最終的な評価に繋がるのかも知れない。

表 9 道路整備への投資額と満足度の相関

地区	評価（そう思う）	投資額（百万円）	回帰統計	
下連雀	34.30	585	重相関 R	0.219989777
牟礼	35.20	465	重決定 R2	0.048395502
井の頭	35.90	265	補正 R2	-0.057338331
大沢	45.20	263	標準誤差	5.800587265
上連雀	49.10	205	観測数	11
井口	33.10	146		
深大寺	33.70	80		
中原	34.00	75		
北野	39.60	67		
新川	39.10	65		
野崎	45.70	26		

出典：三鷹市（2023a）、ポータルサイトから集計、及び回帰分析

※そう思う→出典の満足度調査の質問項目：「道路の通行のしやすさ」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答したものの合計

そこで、投資額だけではなく、道路整備の評価に影響を与えると思われる都市指標を追加し検証してみる。道路の評価には、車だけへの配慮だけではなく、歩行者、自転車にも十分に配慮した整備が求められる。「道という空間の特徴は、その人が何者であろうとも排除されることがない。（中略）古来から道は公共空間として機能してきたのである（鳴海 2009）。」（平井太郎、松尾浩一郎、山口恵子 2022: 113）とあるように、“空間”という視点からは人間の心理・感覚に訴える要素も大きいと言える。ちなみに、後述するが、国土交通省においては「人中心の道路空間の創出」というビジョンの中で、“賑わい空間”、“生活空間”として従来の車中心の政策から大きくかじが切られている。そこで、表 10 に示すように、公共サービス・投資額以外の指標として、

- ◆地区面積
 - ◆公共空間面積
 - ◆人口
 - ◆交通量（表 11）
 - ◆道路ポイント（安全、安心に配慮した南北の道路、または、東西の幅員が大きい都市計画道路が通る場合を 1 ポイント換算）
- も検討する。

表 10 検討対象として考えられる投資額以外の指標

地区	地区面積 (km ²)	公共空間面積 (km ²)	人口	公園面積 (m ²)	公園面積 (m ²) / 人	公共空間面積 (km ²) / 人	投資額 (市道のみ)	投資額 (円) / 人	交通量
下連雀	2.25	0.8325	46,844	25,111.89	0.54	0.0000178	158,657,800	12,481	17,921
牟礼	1.69	0.5915	22,593	32,778.13	1.45	0.0000262	28,055,600	20,566	19,539
井の頭	1.34	0.4154	15,798	8,341.12	0.53	0.0000263	365,218,900	16,792	6,092
大沢	2.82	1.6074	13,145	15,412.34	1.17	0.0001223	221,048,000	20,040	38,860
上連雀	1.89	0.6993	25,819	36,769.49	1.42	0.0000271	184,485,000	7,931	21,334
井口	0.96	0.2592	12,672	7,692.21	0.61	0.0000205	93,324,200	11,524	20,813
深大寺	0.57	0.1539	8,047	11,082.16	1.38	0.0000191	66,937,000	9,913	20,813
中原	1.11	0.4440	14,736	15,412.96	1.05	0.0000301	62,674,700	5,069	19,235
北野	1.02	0.3570	7,832	12,725.14	1.62	0.0000456	48,952,500	8,514	19,235
新川	1.78	0.7120	15,938	66,186.59	4.15	0.0000447	54,144,100	4,048	19,235
野崎	0.99	0.2673	6,492	8,283.56	1.28	0.0000412	12,000,000	3,928	45,857

出典：三鷹市企画部企画経営課（2023）等

※交通量はすべての地区では行っていないので、最も近い地点の交通量

表 11 主要交差点の交通量

(1) 主要交差点交通量						
交差点名	平成28年12月13日					
	総数	乗用車	二輪車	自転車	小型トラック	大型車
三鷹市井口新田交差点	20,813	10,860	661	3,687	3,983	1,622
八幡前交差点	21,334	10,893	753	2,761	4,218	2,709
南浦交差点	17,921	9,840	694	1,533	3,878	1,976
狐久保交差点	19,539	9,611	679	3,135	3,413	2,701
山中交差点	22,564	11,341	808	3,491	4,868	2,056
野崎交差点	22,350	11,729	836	2,452	4,923	2,410
三鷹市役所前交差点	24,249	10,485	869	6,458	4,010	2,427
三鷹市新川交差点	19,235	9,557	716	3,192	3,810	1,960
天文台北交差点	38,860	20,660	1,626	4,596	8,570	3,408
野崎八幡前交差点	45,857	24,923	1,879	5,479	9,556	4,020
三鷹台駅南交差点	6,092	3,048	243	1,279	1,271	251
合計	258,814	132,947	9,764	38,063	52,500	25,540
※ 12時間調査(午前7:00～午後7:00)						
資料：都市整備部都市交通課						

出典：三鷹市企画部企画経営課（2023）

表 10 の中から、道路に関連すると思われる指標を取り上げ（表 12-1）、満足度とのマクロな相関分析を行う。

前述したように、投資額と満足度（そう思う）の相関は、投資途中の段階であるとも考えられるためそう高くはなく、負の相関であった。表 12-2 に示すように、正の相関で比較的高いものは、交通量、道路ポイント、公共空間面積（km²）／人である。交通量が多くても満足度が高い（図 9）ことは、先にも見たように東京都等と連携を図りながら、都市計画道路の用地取得や特定道路の整備を進め、安全性や快適性が確保された歩車共存の生活道路の整備等、整備率の拡大が図られてきたことによるのかも知れない。また、前述のように、道路は古くから公共“空間”として機能してきたというように、歩行者の誰もが安心して円滑に移動できる、ユニバーサルデザインによる歩行空間を持つ特定道路、生活道路の整備も進められてきており、交通量が多くてもその評価が大きい一因と言えよう。また、“空間”という視点からは、公共空間面積の大きいことも評価を高める（図 10）要因と考えられる。国は、不足する歩行者空間を確保するため、新たな道路空間リノベーションの特定道路の整備を進めており、安全性、つまり人間の心理に安心を与えるような、道路というハード整備だけでない部分が求められていると言えよう。

表 12-1 検討対象とした投資額以外の指標

地区	評価（そう思う）	投資額（百万円）	投資額（円）／人	道路ポイント	公共空間面積（km ² ）	公共空間面積（km ² ）／人	交通量	公園面積（㎡）	公園面積（㎡）／人
下連雀	34.30	585	12,481	2	0.8325	0.0000178	17,921	25,111.89	0.54
牟礼	35.20	465	20,566	2	0.5915	0.0000262	19,539	32,778.13	1.45
井の頭	35.90	265	16,792	0	0.4154	0.0000263	6,092	8,341.12	0.53
大沢	45.20	263	20,040	3	1.6074	0.0001223	38,860	15,412.34	1.17
上連雀	49.10	205	7,931	3	0.6993	0.0000271	21,334	36,769.49	1.42
井口	33.10	146	11,524	3	0.2592	0.0000205	20,813	7,692.21	0.61
深大寺	33.70	80	9,913	1	0.1539	0.0000191	20,813	11,082.16	1.38
中原	34.00	75	5,069	0	0.4440	0.0000301	19,235	15,412.96	1.05
北野	39.60	67	8,514	0	0.3570	0.0000456	19,235	12,725.14	1.62
新川	39.10	65	4,048	3	0.7120	0.0000447	19,235	66,186.59	4.15
野崎	45.70	26	3,928	5	0.2673	0.0000412	45,857	8,283.56	1.28

表 12-2 相関分析の結果

	評価（そう思う）	投資額（百万円）	投資額（円）／人	道路ポイント	公共空間面積（km ² ）	公共空間面積（km ² ）／人	交通量	公園面積（㎡）	公園面積（㎡）／人
評価（そう思う）	1								
投資額（百万円）	-0.2200	1							
投資額（円）／人	-0.1582	0.6829	1						
道路ポイント	0.5596	-0.0473	-0.1586	1					
公共空間面積（km ² ）	0.4153	0.4219	0.4712	0.2295	1				
公共空間面積（km ² ）／人	0.5149	-0.0872	0.3130	0.2409	0.7954	1			
交通量	0.6002	-0.2626	-0.1441	0.7392	0.2976	0.5754	1		
公園面積（㎡）	0.1757	0.1050	-0.2061	0.2330	0.2850	-0.0107	-0.1661	1	
公園面積（㎡）／人	0.2039	-0.3780	-0.4193	0.2119	0.0891	0.1508	0.0402	0.8264	1

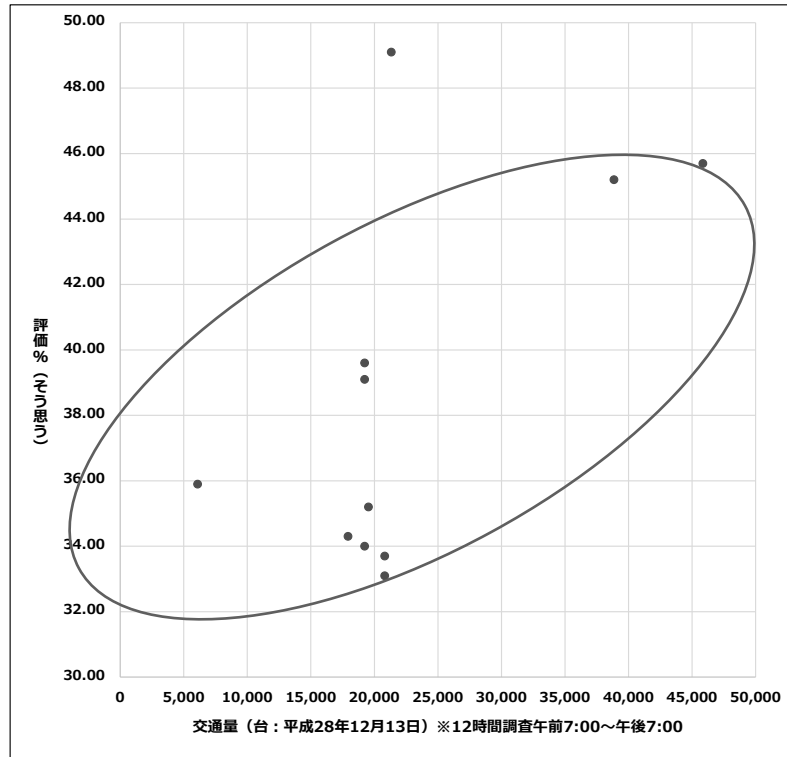


図9 交通量と評価の相関（散布図）

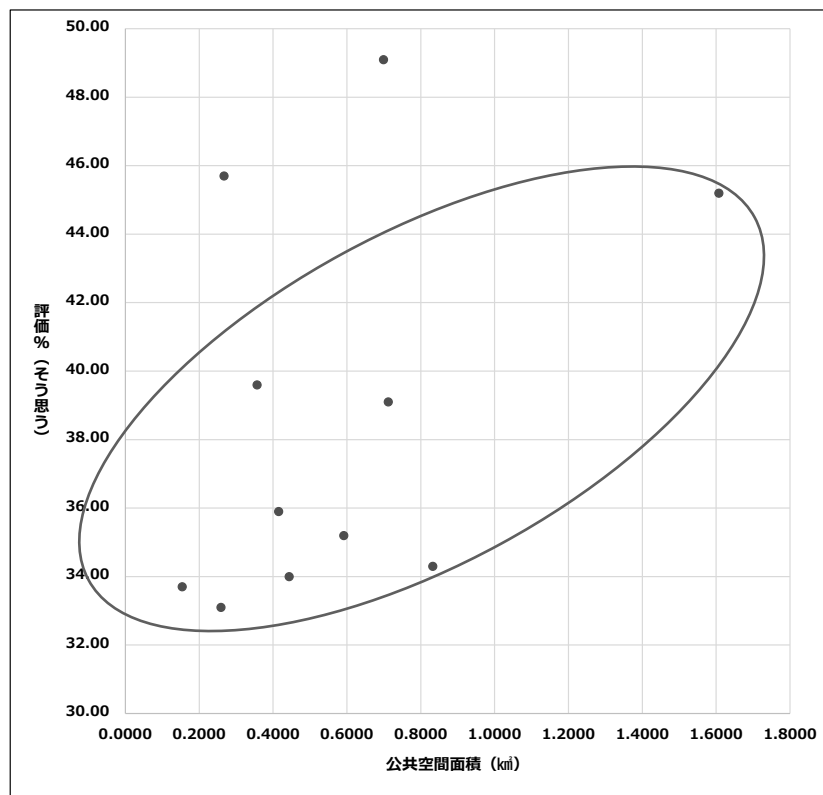


図10 公共空間面積 (km²) と評価の相関（散布図）

また、道路ポイントは幅員の大きい（安全、安心にも繋がる）南北の道路が縦断しているか否かをポイントのひとつとして換算したが、これらの中には特定道路に該当する道路もあり、安全、安心に配慮した道路であることから評価が高いと言えよう。

以上、歩行者・自動車の通行空間の分離、ユニバーサルデザインの観点からの道路空間の整備、また、こうした空間を意識した道路整備は国の道路施策を踏まえたものであり、冒頭で述べたように、“空間”は重要なキーワードであることが窺える。

3.1.3 満足度の経年変化

満足度自体の経年変化をみると（表13）、各年度調査で質問の仕方に違いはあるが、満足度の平均点は低下傾向にあり、表9で示したように、公共投資の蓄積（額）と連動していないことが窺える。プロジェクトの完了に近づいた段階で最終的な評価に繋がるのかも知れない。

表13 満足度の経年傾向

満足度調査の実施時期	平成23年3月 (2011年)	平成27年3月 (2015年)	平成30年12月 (2018年)	令和5年3月 (2023年)
アンケート大項目	—	誰もが安全で快適に移動できる、都市交通安全プロジェクト	誰もが安全で快適に移動できる、都市交通安全プロジェクト	道路の通行のしやすさ
アンケート具体内容	—	環境にやさしく、誰もが安全で安心して快適に移動できる都市の交通環境を整備します。	環境にやさしく、誰もが安全で安心して快適に移動できる都市の交通環境を整備します。	普段利用している道路が、安全の面とネットワークの面から通行しやすいと思いますか。
指標：満足度の平均点	—	3.09	3.04 ↓	2.88 ↓

出典：各年満足度調査

※）平均点は、満足：5点、まあ満足：4点、ふつう：3点、やや不満：2点、不満：1点として算出

3.1.4 近隣市との比較

近隣市との比較においても、都市規模にもよるが三鷹市の投資額（表14）は大きいとは言えない（前提：投資額は、キーワード：道路、市道、都道で抽出）。また、各市における満足度調査において質問形式⁴⁾が異なるものの、三鷹市においては、道路整備に対する評価は相対的に低くなっている（表15）。

表14 近隣市との道路整備への投資額比較

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	総計（単位：百万円）
三鷹市	447	298	248	166	636	445	2,240
調布市	324	541	471	491	552	942	3,321
府中市	481	286	760	236	241	298	2,302
武蔵野市	335	538	838	562	427	633	3,333
総計	1,586	1,662	2,317	1,455	1,857	2,319	11,196

出典：ポータルサイトから集計

表15 近隣市との投資額以外の指標比較

	満足度（％）	投資額（円／人）	道路延長（m／人）	面積（㎡／人）	道路面積（㎡／人）	投資額（円／㎡）
三鷹市	38.8	11,751	1.56	86.14	10.30	7,543
調布市	60.9	13,862	1.84	90.09	11.43	7,521
府中市	67.2	8,819	1.87	112.72	14.76	4,722
武蔵野市	61.2	22,455	1.01	73.97	7.82	22,324

出典：各市満足度調査、統計書、ポータルサイトから集計等

3.1.5 今後の計画

『第5次三鷹市基本計画』でも、全ての利用者にとって安全で快適な歩行空間・都市空間の整備のために、

- ・幹線道路である都市計画道路や生活道路の整備
- ・道路ネットワークの形成や地域の安全安心の確保
- ・安全で快適な道路空間の創出（自転車走行空間や歩行空間の確保、樹木の配置など）
- ・既存道路のバリアフリー化

などが推進されており、令和6～9年度に取り組むべき主要事業として、表16の事業が位置付けられ、進められている。

国土交通省においては、道路政策ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」（2020年6月）では、人中心の道路を追求する姿勢を鮮明にしている。道路法にも「歩行者の利便増進」を初めて導入し、従来の車中心の政策から大きくかじを切っている。また、2020年11月には“ほこみち”制度を創設、人中心の道路空間としての「賑わい空間」「生活空間」の人が優先される道づくりが推進されている。ほこみち制度とは、賑わいのある道路空間創出のための道路の指定制度として、令和2年に創設された制度である。道路管理者が歩行者利便増進道路の指定を行い、歩道等の中に歩行者空間を確保しながら、歩行者の利便増進を図る空間として利便増進誘導区域を定めることで、テーブルやイス、イベントなど多様な道路空間の活用が可能となる。三鷹市においても、こうした制度を活用した道路空間の整備が求められる。

表16 主要なインフラ（道路）事業

主要事業	具体的事業・内容
主要幹線道路	・都市計画道路3・4・13号（牟礼）整備の促進
	・都市計画道路3・4・7号（連雀通り）整備の促進
	・まちづくりと一体で進めるみちづくり
主要生活道路等の整備等の整備	・牟礼地区生活道路緊急安全対策の実施
	・狭あい道路の整備
	・道路の拡幅整備の推進
	・快適な歩行空間の整備
橋梁の再生・整備	・三鷹駅南口ペDESTリアンデッキの改修
	・宮下橋の架け替え
	・井の頭公園階段橋の架け替え
安全安心な道路環境の構築	・自転車交通環境の整備
	・バリアフリーに配慮したみちづくりの推進
	・無電柱化の推進
	・通過交通の抑制

出典：三鷹市（2024a）

3.2 緑地空間（都市公園）の整備

3.2.1 整備状況と計画

『論点集』（三鷹市2018）に位置付けられた方向性を実現するために、2018年度に「公園・緑地の適切な活用に向けた指針」を策定、令和2年に『緑と水の基本計画』の第2次改定を行い、表17に示すように、これまで

も公園緑地の整備や公有地化を進め、緑の保全を図ってきている。

緑地空間（都市公園）についても、キーワード（“公園”）で抽出した落札データより、道路整備と同様に地区別に分類した（落札情報の案件名や事業内容から特定できた9地区のみ）。地区別に特定できないものは特定できた情報の比率を元に案分した。6年間の合計で873百万円となっている。最も多いのは新川地区で、三鷹中央防災公園・元気創造プラザ関連工事、農業公園トイレ建替等工事、次いで多い下連雀地区は下連雀五丁目公園（仮称）整備工事などである。

表 17 公園整備への地区別投資額（2018 年度～2023 年度）

地区	①落札額（百万円）	構成比	②地区特定ができない分	①+②落札額（百万円）
新川	100	26.5%	131	231
下連雀	78	20.7%	102	181
大沢	48	12.6%	62	110
中原	48	12.6%	62	110
深大寺	40	10.5%	52	92
牟礼	26	6.9%	34	60
上連雀	16	4.2%	21	37
井の頭	15	4.0%	20	35
野崎	8	2.2%	11	19
地区特定ができない分	494			
計	873			

出典：ポータルサイトから集計

3.2.2 投資と満足度・都市指標との相関分析

道路同様に、この過去6年分の地区別の公共サービス・投資額と市民満足度の相関をみる。表18は、被説明変数を評価（そう思う）、説明変数を投資額とした単回帰分析であるが、道路整備と同様に相関係数は高いとはいえず、投資額規模そのものが直接に満足度評価へ影響を与えているとはいえない。事業中のプロジェクトも多く、それらの完了が近づいた段階で最終的な評価に繋がるのかも知れない。

表 18 公園整備への投資額と満足度の相関

地区	評価（そう思う）	投資額（百万円）	回帰統計	
新川	71.4	231	重相関 R	0.445126
下連雀	74.5	181	重決定 R2	0.198137
大沢	79.8	110	補正 R2	0.083585
中原	70.2	110	標準誤差	5.086168
深大寺	75.0	92	観測数	9
牟礼	78.8	60		
上連雀	74.5	37		
井の頭	87.8	35		
野崎	73.9	19		

出典：三鷹市（2023a）、ポータルサイトから集計、及び回帰分析

※そう思う→出典の満足度調査の質問項目：「道路の通行のしやすさ」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答したものの合計

そこで、道路整備と同様の指標（表 19）を用い、公共サービス・投資額だけではなく、公園整備の評価に影響を与えられる都市指標で検証してみる。公共サービス・投資額以外の指標として、表 19 に示すように、

- ◆公共空間面積
- ◆公園面積
- ◆人口
- ◆交通量
- ◆道路ポイント（安全、安心に配慮した南北の道路、または、東西の幅員が大きい都市計画道路が通る場合を 1 ポイント換算）

を用いる。

検討結果を表 20 に示すが、公共投資規模（額）と満足度（そう思う）の相関はそう高くない（負の相関）。表 18 にあるように、井の頭地区は、東京都管理の井の頭恩賜公園があり、広大で誰もが親しめる公園として認識されているため、投資額はそれほど大きくはないものの評価は高くなっていることも要因の一つと思われる。また、道路ポイント、交通量も負の相関である。公園の周辺環境は、静かな環境が求められていることに繋がるのかも知れない。また、公園面積は負の相関であるものの、公共空間面積になると負の相関ではなくなることから、公園というスペースから地区という広域スペースへ、こうした広さとの相関も窺うことができよう。

ここでも、“空間” は重要なキーワードであることが窺える。

表 19 検討対象とした投資額以外の指標

地区	評価（そう思う）	投資額（百万円）	投資額（円）／人	道路ポイント	公共空間面積（㎩）	公共空間面積（㎡）／人	交通量	公園面積（㎡）	公園面積（㎡）／人
新川	71.4	231	14,497	3	0.7120	0.0000447	19,235	66,186.59	4.15
下連雀	74.5	181	3,859	2	0.8325	0.0000178	17,921	25,111.89	0.54
大沢	79.8	110	8,367	3	1.6074	0.0001223	38,860	15,412.34	1.17
中原	70.2	110	7,440	0	0.4440	0.0000301	19,235	15,412.96	1.05
深大寺	75.0	92	11,392	1	0.1539	0.0000191	20,813	11,082.16	1.38
牟礼	78.8	60	2,649	2	0.5915	0.0000262	19,539	32,778.13	1.45
上連雀	74.5	37	1,417	3	0.6993	0.0000271	21,334	36,769.49	1.42
井の頭	87.8	35	2,208	0	0.4154	0.0000263	6,092	8,341.12	0.53
野崎	73.9	19	2,912	5	0.2673	0.0000412	45,857	8,283.56	1.28

出典：三鷹市企画部企画経営課（2023）等

※交通量はすべての地区では行っていないので、最も近い地点の交通量

表 20 相関分析の結果

	評価（そう思う）	投資額（百万円）	投資額（円）／人	道路ポイント	公共空間面積（㎩）	公共空間面積（㎡）／人	交通量	公園面積（㎡）	公園面積（㎡）／人
評価（そう思う）	1								
投資額（百万円）	-0.4451	1							
投資額（円）／人	-0.4167	0.7103	1						
道路ポイント	-0.2884	-0.0473	-0.0631	1					
公共空間面積（㎩）	0.1435	0.3299	0.0946	0.2386	1				
公共空間面積（㎡）／人	0.1603	0.1021	0.2597	0.3502	0.8204	1			
交通量	-0.2884	-0.1872	0.0270	0.7951	0.2778	0.5887	1		
公園面積（㎡）	-0.3914	0.6275	0.3949	0.2480	0.1974	-0.0548	-0.2162	1	
公園面積（㎡）／人	-0.4406	0.5722	0.6923	0.3315	0.0368	0.1019	0.0333	0.8446	1

出典：著者作成

3.2.3 満足度の経年変化

また、満足度自体の経年変化（表 21）をみると、満足度の平均点は横ばいであったが、2023 年 3 月調査では大きく向上している。アンケートの質問の仕方によるものかも知れないが、2023 年 3 月調査では、自身の居住地の自然環境（公園、緑地）に対する評価、という踏み込んだ表現になっていることに影響があるのかも知れない。

表 21 満足度の経年傾向

満足度調査の実施時期	平成 23 年 3 月	平成 27 年 3 月	平成 30 年 12 月	令和 5 年 3 月
アンケート大項目	安全とうるおいのある快適空間のまちをつくる	持続可能な都市環境をめざす、サステナブルプロジェクト	—	都市整備、住環境について
アンケート具体内容	緑と水の快適空間の創造（公園や緑地の改修・拡充／丸池の里などのふれ合いの里・市民の広場の整備／生け垣化や屋上・壁面緑化などの緑化の推進）	公園緑地の整備、学校校庭や屋上の芝生化など緑化推進	—	あなたは、あなたの住んでいる地域の自然環境（公園や緑地など人工物も含む。）と生活環境が調和していると思いますか。
指標：満足度の平均点	3.29	3.28 →	—	3.88 ↗

出典：各年満足度調査

※）平均点は、満足：5 点、まあ満足：4 点、ふつう：3 点、やや不満：2 点、不満：1 点として算出

3.2.4 今後の計画

『第 5 次三鷹市基本計画』でも、緑と水の保全、再生、創出を図り、安全で安心して利用できる魅力ある公園づくりのため、

- ・民有地における農地や保全樹木等の保全対策
- ・老朽化した遊具の改修・更新
- ・ユニバーサルデザインに配慮したトイレの改築
- ・「“百年の森”構想」の実現に向けた緑化助成等の推進、防災機能を備えつつ、緑豊かでうるおいのある公園都市の形成

などが推進されており、2024～2027 年度に取り組むべき主要事業として表 22 が位置付けられ、進められている。

後述するが、Park-PFI（P-PFI の表記もあり、「公募設置管理制度」）は、2017 年 6 月の都市公園法の改正によって新たに設けられた、事業者を公募により選定する制度である。事業者は、飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う。こうした制度では、設置管理許可期間

の延伸や建蔽率緩和など、事業者が公募対象公園施設を都市公園に設置し、運営しやすくするための法の特例措置が設けられており、制度を活用した公園整備も考えられる。

表 22 主要な緑地空間（都市公園）事業

主要事業	具体的事業・内容
緑と三鷹の原風景の保全	・大沢の里、牟礼の里、丸池の里の豊かな地域資源の保存と活用への取り組み
	・借地公園の計画的な公有地化の推進、公園やオープンスペースの永続的な確保
緑のまちの創出	・「“百年の森”構想」の実現、“子どもの森（仮称）”を第一歩とした緑地・里・樹林・農地を緑でつなぐ市全体の「緑のまち」づくり
	・壁面・屋上緑化及び接道部緑化工事を対象にした緑化助成制度の推進で、緑豊かなうらおいのあるまちづくり
安全で安心な魅力のある公園再生	・多世代が利用でき、立地や地域特性に応じた特色ある公園づくり、ボール遊びのできる場の検討やおすすめ公園マップの作成
	・誰もが楽しめる公園づくりを目指し、インクルーシブ遊具を設置、またバリアフリー等に配慮したトイレへの改装
	・災害時に活用できるように、かまどベンチなど防災施設の整備
	・遊具の下にマットを整備するなど安全面の向上、老朽化した遊具等の施設の改修及び樹木や公園灯等の適正な維持管理、2次元コードを活用した利用者からの情報提供の仕組みの検討
	・清掃、除草、花壇ボランティア活動を行う市民等との協働による維持管理、公園のルールの周知等

出典：三鷹市（2024a）

3.3 インフラ（公共下水道）の整備

3.3.1 整備状況と計画

三鷹市においては、1973 年に公共下水道普及率 100%（表 26）を全国に先駆けて達成し、総延長も伸び（表 25）、以降、『論点集』（三鷹市 2018）に位置付けられた方向性を実現するために、防災拠点周辺の耐震化や雨水浸透ますの設置などに取り組んできている。一方で、東部水再生センターも運用開始から 50 年以上が経過し老朽化が進行している。

キーワード（“下水道”“東部水再生センター”）で抽出した落札データより、これまでのインフラ（公共下水道）整備への投資額は、表 23 に示すように 5,685 百万円であり、老朽化した東部水再生センターへの投資が大きい。下水道で抽出した結果は管路に関する投資が多いが、老朽化対策への「長寿命化工事」は 1,126 百万円のうち 886 百万円と約 8 割を占めている（表 24、キーワード“長寿命化工事”で抽出）。

表 23 公共下水道整備への投資額（2018 年度～2023 年度）

キーワード	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	計（百万円）
下水道（抽出結果は管路中心）	69	423	118	114	180	220	1,126
東部水再生センター	89	2,139	22	1,085	198	1,025	4,558
計	158	2,563	141	1,200	378	1,245	5,685

出典：ポータルサイトから集計

表 24 長寿命化工事の例

発注機関	発注地域	件名	開札日	年度
その他東京都市町村/三鷹市	東京都	下水道管路施設長寿命化工事その4(新川・中原地区)【三鷹市】	2022/9/1	2022
その他東京都市町村/三鷹市	東京都	下水道管路施設長寿命化工事その5(人孔改修)【三鷹市】	2022/11/8	2022
その他東京都市町村/三鷹市	東京都	下水道管路施設長寿命化工事その4(新川・中原地区)【三鷹市】	2023/1/17	2022
その他東京都市町村/三鷹市	東京都	下水道管路施設長寿命化工事その1(牟礼地区ほか)【三鷹市】	2023/5/19	2023
その他東京都市町村/三鷹市	東京都	下水道管路施設長寿命化工事その3(大沢・新川地区)【三鷹市】	2023/5/19	2023
その他東京都市町村/三鷹市	東京都	下水道管路施設長寿命化工事その2(大沢地区)【三鷹市】	2023/5/22	2023
その他東京都市町村/三鷹市	東京都	下水道管路施設長寿命化工事その4(人孔改築)【三鷹市】	2023/10/27	2023
その他東京都市町村/三鷹市	東京都	下水道管路施設長寿命化工事その4(人孔改築)【三鷹市】	2024/3/4	2023

出典：ポータルサイトから集計

表 25 下水道施設・付属設備の推移

(5) 下水道施設・付属設備					
単位：延長＝m			各年3月31日		
年	下水処理場	ポンプ場数	管渠総延長	マンホール数	汚水ます数
令和2	1	2	454,422	14,610	37,898
3	1	2	455,166	14,677	38,204
4	1	2	455,825	14,715	38,398
5	1	2	456,956	14,783	38,619
6	1	2	457,431	14,813	38,857
資料：都市整備部水再生課					

出典：三鷹市企画部企画経営課（2023）

表 26 下水道普及状況

(4) 下水道普及状況								
単位：面積＝ha					各年3月31日			
年	下水道 事業 計画面積	普及状況						普及率
		総数		水洗化		未水洗化		
		人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	
令和2	1,650	189,478	95,418	189,474	95,417	4	1	100.0
3	1,650	190,774	96,408	190,770	96,407	4	1	100.0
4	1,650	190,295	96,199	190,292	96,198	3	1	100.0
5	1,650	190,173	96,682	190,170	96,681	3	1	100.0
6	1,650	190,309	97,228	190,306	97,227	3	1	100.0
資料：都市整備部水再生課								

出典：三鷹市企画部企画経営課（2023）

3.3.2 満足度の経年変化

また、満足度自体の経年変化（表 27）をみると、満足度の平均点は増加傾向にあり、特に 2018 年から 2023 年に大きく向上している。公園と同様に、アンケートの質問の仕方によるものかも知れないが、2023 年 3 月調査では、自身の居住地域の住環境に対する評価、という、それまでの調査の質問と比較して、市民の心理に問いかけるような形式になっていることが影響しているのかも知れない。

表 27 満足度の経年傾向

満足度調査の実施時期	2011 年 3 月	2015 年 3 月	2018 年 12 月	2023 年 3 月
アンケート大項目	水循環の促進	危機管理プロジェクト	すべての人が心安らかに暮らせる、安全安心プロジェクト	居住地域の住環境の良好さ
アンケート具体内容	水道施設の整備／雨水と汚水を分流する方式の下水道の拡大による、合流式下水道の改善／雨水浸透ますの設置	雨水管（下水道）の設置など都市型水害対策の推進	集中豪雨による水害対策として、雨水管等の整備を実施中 仙川の改修工事に着手	あなたの住んでいる地域は良好な住環境であると思いますか。
指標：満足度の平均点	3.25	3.31 ↗	3.47 ↗	4.18 ↗

出所：各年満足度調査

3.3.3 今後の計画

『第 5 次三鷹市基本計画』でも、水質向上や安定した下水処理の継続のため、

- ・安定した下水道機能の確保
- ・都市型水害対策の推進
- ・東部処理区の流域下水道への編入

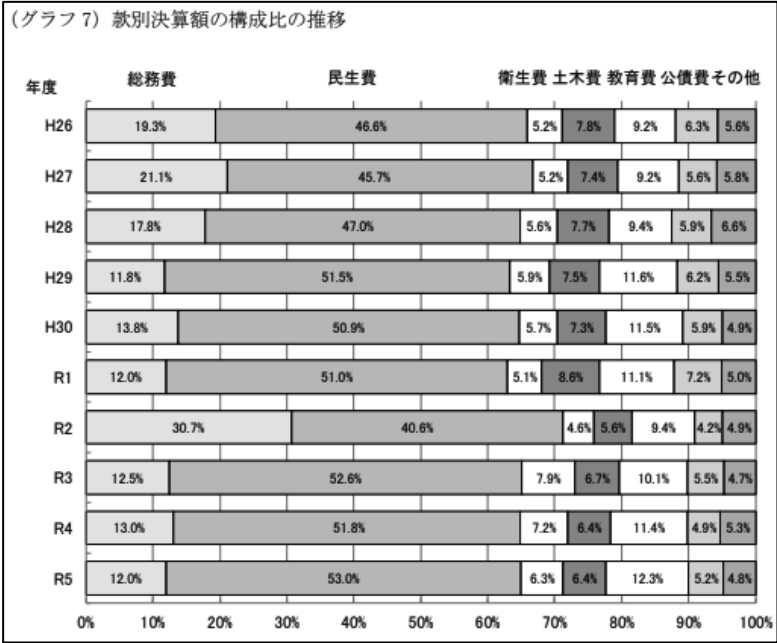
が推進されており、2024～2027 年度に取り組むべき主要事業として表 28 が位置付けられ、進められている。2025 年 1 月 28 日、埼玉県八潮市で下水道管路に起因する道路陥没事故が発生した。老朽化に伴う下水道管の破損に起因すると考えられる事故で、トラック 1 台が巻き込まれるとともに、周辺の市民の下水道使用の自粛など、大きな影響が発生した。この事故を踏まえた緊急点検（7 都府県 13 箇所下水道管理者者に対する）でも、管路の腐食などの異常が 3 箇所確認された（国土交通省 2025）。こうした事故を未然に防止するために、三鷹市においても調査と更生工事等の老朽化対策をさらに進めていくことは喫緊の課題と言えよう。

表 28 主要なインフラ（下水道）事業

主要事業	具体的事業・内容	過去 6 年の投資割合
安定した下水道機能の確保	・下水道管路施設の耐震性能の調査、耐震化工事	キーワード“下水道”での抽出のうち、管路の長寿命化工事は約 80%を占める
	・更新期を迎えるポンプ場、下水道管路施設等の効果的・効率的な長寿命化事業	
	・東部水再生センターの流域編入までの間の延命化	
都市型水害対策の推進	・建物の出入り口に止水板を設置する工事等に対する助成	
	・開発事業等において雨水浸透施設の設置指導等、市内の既存住宅へ雨水浸透ますを公費負担で設置	
	・気候変動に伴う大雨に対して、浸水シミュレーションを行い、必要な対策を検討、実施	
東部処理区の流域下水道への編入	・東部処理区の流域下水道への編入についての関係機関との調整	
	・流域下水道編入までにかかる資本費と編入後の維持管理費の推計、経営に関する地方公営企業法に基づいた収支見通しを分析、検討	

出典：三鷹市（2024a）

以上、検討してきた道路（22 億 4,000 万円）、公園（8 億 7,300 万円）、公共下水道（56 億 8,500 万円）は、予算においては、図 11 に示すように土木費（道路や橋、公園、市営住宅の整備や維持管理などに必要な経費）に位置付けられている。令和 5 年度においては民生費（53.0%）、教育費（12.3%）、総務費（12.0%）に次いで 6.4% となっており、重要な歳出となっていることが窺える。



出典：三鷹市企画部 財政課（2024b）

図 11 款別決算額の構成比の推移

3.4 学校環境の整備

3.4.1 整備状況

『論点集』（三鷹市 2018）に位置付けられた方向性を実現するために、これまでも全小・中学校のトイレの洋式化や体育館の空調設備の整備のほか、大規模改修工事が計画的に進められてきた。図 12 に示すように、トイレの洋式化率をみると、2016 年 4 月 1 日では 46.6%であったものが、2023 年 9 月 1 日には 84.3%へと大きく向上している。

キーワード（“トイレ” “空調”）で抽出した落札データより、これまでの学校環境、特にトイレの洋式化、小学校等の空調整備への投資額は、表 29、30 に示すようにそれぞれ 1,325 百万円、1,706 百万円である。

表 29 トイレ整備への投資額

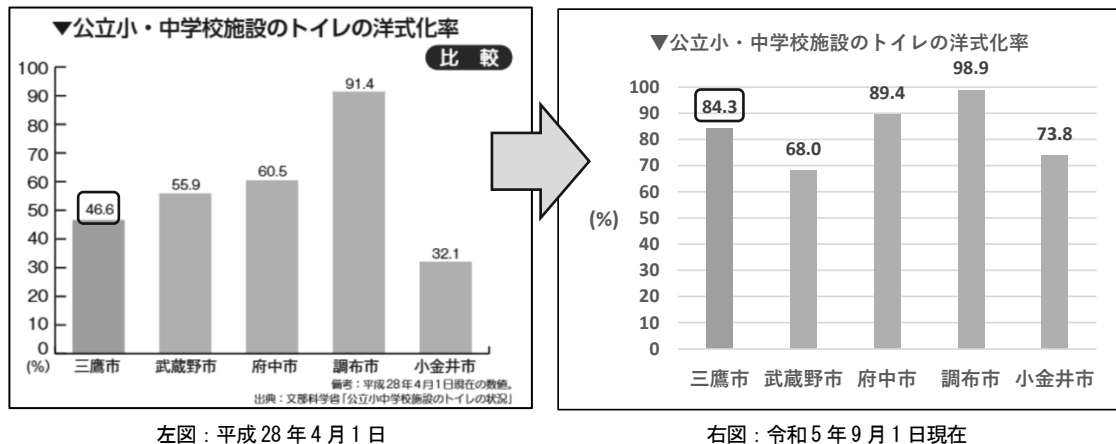
2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	計（百万円）
216	321	235	100	87	368	1,325

出典：ポータルサイトから集計

表 30 空調整備への投資額

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	計（百万円）
5	125	651	416	285	224	1,706

出典：ポータルサイトから集計



出典：論点集（三鷹市 2018）、文部科学省（2023）

図 12 トイレの洋式化の推進

3.4.2 今後の計画

『第 5 次三鷹市基本計画』でも、誰もが安全安心で快適に学べる学校施設・設備の整備の推進のために、

- ・「新都市再生ビジョン」⁵⁾に基づき計画的な改修工事等の実施
- ・更新時期を迎える中原小学校及び第四中学校については「学校 3 部制」に対応し、地域をつなぐ拠点となるような学校施設をめざして校舎の建て替えへの取り組み

2024～2027 年度に取り組むべき主要事業（安心安全で快適な学びの環境整備）では、表 31 が位置付けられ、進められている。

2025 年 2 月 26 日、近隣市において、市内の全小・中学校の校舎のトイレ改修が完了し、バリアフリートイレの設置、及び全洋式化かつ温水洗浄便座への改修がなされたとの報道があった（府中市 2025）。学校施設は教育の場としての役割だけではなく、同時に災害時の地域住民の避難所としての役割を担っていることから、避難生活や災害対応に必要な機能を備えることも求められている。避難所生活で最も不便だったこととしてトイレ問題は上位にあり、感染症やトイレを使用する回数を減らすために水分をとらないことによるエコノミークラス症候群などを抑制するためにも、三鷹市においても更なる洋式化、温水洗浄便座の設置が望まれる。

表 31 主要な教育事業

主要事業	具体的事業・内容
安心安全で快適な学びの環境整備	・学校安全推進員（スクールエンジェルス）の活用、通学路安全点検の実施や防犯カメラ等の適切な運用への取り組み ・児童・生徒への安全教育、防災教育のより一層の充実を図る
	・学習用タブレット端末の更新や教育ネットワークシステムの更新に向けた設計の実施など、デジタル技術を活用した教育環境整備の計画的な実施
	・誰もが安全安心で快適に学べる学校施設・設備の整備の推進のために、 ・「新都市再生ビジョン」に基づき計画的な改修工事等の実施 ・更新時期を迎える中原小学校及び第四中学校については「学校 3 部制」に対応し、地域をつなぐ拠点となるような学校施設をめざして校舎の建て替えへの取り組み

出典：三鷹市（2024a）

3.5 情報環境の整備

3.5.1 整備状況

『論点集』（三鷹市 2018）に位置付けられた方向性を実現するために、表 33 に示すように、これまでも市民の利便性向上に向けて行政手続のオンライン化の拡充、デジタル技術を活用した業務の自動化・効率化による職員の生産性向上などに取り組み、また、多摩地域 4 市による住民情報システムの共同利用により、業務の標準化によるコスト削減を実現してきており、手続きの種類は 2023 年度に 200 種類と大きく増加した。

キーワード（“行政手続”）で抽出した落札データは、基幹系システム開発業務（行政手続のオンライン化対応における機器等の導入及び設定作業、行政手続のオンライン化対応における申請管理システムの導入）の調達であり、表 32 に示すように投資額は 23 百万円である。

表 32 情報環境への投資額

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	計（百万円）
—	—	—	—	23	—	23

出典：ポータルサイトから集計

表 33 インターネット届出・申請手続きの種類、HP アクセス数（件）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
インターネットなどで届出・申請ができる手続きの種類	30	40	30	57	167	200
市ホームページのアクセス数	2,740,984	3,148,630	4,976,176	5,399,509	3,973,064	3,703,727

出所：三鷹市（2018～2023）

3.5.2 今後の計画

『第5次三鷹市基本計画』でも、市民生活のデジタル化を推進することによって、誰もが暮らしやすいと感じられるまち「スマートシティ三鷹」の実現に向けて、

- ・行政手続のデジタル化の促進
- ・身近な行政サービスの提供
- ・市政情報の一元化とプッシュ型の情報発信

などが推進され、2024～2027年度に取り組むべき主要事業では表34が位置付けられ、進められている。総務省においては、「令和6年度自治体フロントヤード改革モデルプロジェクト」として、令和6（2025）年度中に住民と行政との接点（フロントヤード）の多様化・充実化等を図る人口規模別の総合的な改革モデル等を構築し、横展開を図ることとしている。行政や公共サービスの現場で、市民に直接接する窓口やサービスの質を向上させるための取り組みであり、デジタル化、効率化、そして市民のニーズに即した改善を目指し、より親しみやすく、使いやすい行政サービスを提供することが目標である。ポータルサイトから抽出される三鷹市におけるフロントヤード改革案件は、「市民部フリーアドレス導入・拡充に係る諸備品等調達」、つまり、フロントヤードとバックヤードの業務を分けできる執務環境（業務の効率化及び職員の労務環境の改善を図るためのフリーアドレス制の導入・拡充）の整備であり、窓口業務のワンストップ化を推進し、市民の利便性を向上させることへ繋がるものである。今後こうした市民サービス向上（「書かない窓口」「ワンストップ窓口」「やさしい窓口」）への対応が更に求められることになると思われる。

表 34 主要なオンライン化事業

主要事業	具体的事業・内容
行政サービスの利便性向上	・行政手続のデジタル化の促進 「いつでも」、「どこでも」デジタルで一貫して手続を完結できる仕組みの構築 「書かない窓口」「ワンストップ窓口」などによる利用者の利便性向上 オンライン化の促進とともに、きめ細やかな相談機能の充実、誰にでも「やさしい窓口」をめざす
	・身近な行政サービスの提供 より身近な場所で行政サービスが受けられるよう、公共施設の分散ネットワーク化を見据え、リモート相談などデジタル技術の活用についての検討 VR（仮想現実）を活用した相談やロボット技術を活用したコミュニケーション支援など、利用者の状況に応じたきめ細やかなサービスに向けた実証の検討

出典：三鷹市（2024a）

3.6 健康づくりの推進

3.6.1 整備状況

『論点集』（三鷹市2018）に位置付けられた方向性を実現するために、これまでも希望と安心にみちた健康・福祉のまちづくりの視点から、健康づくりにおいては、健康診査・検診の充実を図るとともに、市民の健康づくりと介護予防・保健事業が推進されてきている。キーワード（“健康づくり”）で抽出した落札データによる金額は表35の通り38百万円である。公共サービス・投資における健康づくり案件は、主に小・中学校教職員定期健康診断業務の件数が多い。未来を担う子どもたち一人ひとりが、自らの幸せな人生とより良い社会の創造、すなわち個人と社会のウェルビーイングの実現のための大切な条件として「人間力」と「社会力」を主体的に発揮で

きるようになることが重要で、その実現のための施策の一つとして、表 36 に示すように教職員の学校における働き方改革の推進において教員の健康保持増進の推進、いわゆるウェルビーイングの実現などの推進に取り組んでいる。

表 35 健康づくり事業への投資

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	計（百万円）
3	3	3	9	3	17	38

出典：ポータルサイトから集計

表 36 学校における働き方改革の推進

第3 魅力ある教育の推進	
学校給食用食材の放射性物質検査の実施	386,730
学校給食の充実と効率的な運営の推進	592,437,222
小・中学校でのPCR検査の支援	1,298,790
学校における働き方改革の推進	16,663,273

出所：三鷹市（2021b）

3.6.2 今後の計画

『第5次三鷹市基本計画』では、令和6～9年度に取り組むべき主要事業として表37が位置付けられ、進められている。学校における労働安全衛生管理体制は、近年改善はみられるものの、特に小中学校においていまだに低い水準にとどまっており、対策が求められている。文部科学省においては、教職員が教育活動に専念できる適切な職場に向けて、産業医による健康診断・面接指導の実施、作業環境の維持管理等の教職員の健康管理、労働者の心理的な負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）を年に1度実施することなどが学校の設置者に義務付けられているが（教職員数50人未満の学校においては当分の間努力義務）、「労働安全衛生法及び作業環境測定法の一部を改正する法律案要綱」では50人未満の努力義務の特例の廃止も位置付けられ、厚生労働省は法律案として第217回国会へ提出する予定であり、健康づくりへの取り組みはますます重要になってくる。

表 37 主要な健康づくり事業

主要事業	具体的事業・内容
子どもたちを導いていく教職員のウェルビーイングの実現	・教職員のウェルビーイングの実現 学園・学校経営を円滑かつ効果的に推進する中で、教職員の職務実践を通じた自己実現の達成のために、教職員のキャリア支援等の充実
	・学校における働き方改革の推進 「三鷹市立学校における働き方改革プラン」に基づき、国や東京都の施策と連動しながら、専門スタッフを積極的に活用することで、教員が職務に専念できる環境の整備を推進するとともに、教員の健康保持増進を図る

出典：三鷹市（2024a）

3.7 コミュニティ環境の整備

3.7.1 整備状況

『論点集』（三鷹市 2018）に位置付けられた方向性を実現するために、2024 年 3 月に「三鷹市コミュニティ創生基本方針」が策定され、ふれあいと協働で進める市民自治のまちづくりが進められてきている。キーワード（“コミュニティ”）で抽出した落札データによる投資額は表 38 に示すとおり 1,165 百万円である。公共サービス・投資におけるコミュニティ環境づくり案件は、主にコミュニティ・センターの空調設備、受変電設備、防水工事など、地域を支える多様な活動を創出し、それらの連携を促進する「人が集まる機能」を持つ施設整備案件が多い。

表 38 コミュニティ環境事業への投資

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	計（百万円）
79	179	95	208	237	367	1,165

出典：ポータルサイトから集計

3.7.2 今後の計画

『第 5 次三鷹市基本計画』は、2024～2027 年度に取り組むべき主要事業として表 39 が位置付けられ、進められている。ポータルサイトから、キーワードを“地域コミュニティ”として近年の入札案件を抽出すると、施設や設備の整備案件が多いものの、例えば、空き家をまちづくりの資源として捉え、滞在型体験施設、体験学習施設、創作活動施設、文化施設などの地域コミュニティ創出支援の案件も見られる。三鷹市においても地域活動への参加を後押しする仕組みの構築として、空き家の活用の可能性の検討が位置づけられており、創出に努めていくことが重要である。

表 39 主要なコミュニティ環境事業

主要事業	具体的事業・内容
地域に寄り添った支援とサービス提供	・コミュニティ・センターの新たな役割・機能の検討 ・地域を支える多様な活動を創出し、それらの連携を促進する施設となるよう、困りごとや地域活動に関するよろず相談所、地域団体の事務所、多世代の居場所など「人が集まる機能」を整備・強化 ・各住民協議会のホームページの共通規格によるリニューアルや利用ルールの平準化、さらには施設予約管理システムの導入などにより、事業の周知や利便性の向上を図り、幅広い市民の利用を促進

出典：三鷹市（2024a）

4 まとめ

4.1 “空間”の重要性

本研究において検証してきた 7 つの分野で、特に、①道路、②公園については公共空間面積と満足度との相関が比較的高く、今後の整備の方向性においても“空間”はひとつのキーワードとなると考えることができよう。空間を意識した施策について、国土交通省で実施されている以下の 2 つの具体的事業を取り上げてみる。

国土交通省が 18 年ぶりにまとめた道路政策ビジョン「2040 年、道路の景色が変わる」（2020 年 6 月）では、

道路政策の原点を「人々の幸せの実現」と定義し、人中心の道路を追求する姿勢を鮮明にしている。道路法にも「歩行者の利便増進」を初めて導入し、従来の車中心の政策から大きくかじを切っている。2020 年 11 月には“ほこみち” 制度を創設、図 13 に示すように、人中心の道路空間としての「賑わい空間」「生活空間」の人が優先される道づくりが推進されている。三鷹市も 2023 年 9 月 28 日に、市道 135 号線（井の頭一丁目（三鷹台駅前））が歩行者利便増進道路（ほこみち）として指定されている（表 40、図 14）。

2. 人中心の道路空間(賑わい空間)
- 2-1 歩道空間の利活用
- 2-2 歩道と路肩等の有効活用
- 2-3 歩行者と車両が共存する空間（全断面活用）
3. 人中心の道路空間(生活空間)
- 3-1 交通安全に資する道路整備
- 3-2 ゾーン30プラスの推進
- 3-3 データの活用

出典：国土交通省（2024a）

図 13 人中心の道路空間の創出の方向性

表 40 歩行者利便増進道路（ほこみち）指定

	道路管理者	路線名	場所（詳細）	指定（変更）日
三鷹市	三鷹市	市道135号線	三鷹市井の頭一丁目30番26号地先から井の頭一丁目30番21号地先まで	令和5年9月28日

出典：国土交通省（2024b）



出典：三鷹市（2018c）

図 14 ほこみち指定（三鷹台駅前広場：市道 135 号線（井の頭一丁目））

また、2017 年 6 月の都市公園法の改正によって新たに設けられた Park-PFI（P-PFI の表記もあり、「公募設置管理制度」）は、飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度である（図 15）。Park-PFI の大きな特徴は、公募対象公園施設から生ずる収益の見込み等に基づいて特定公園施設の整備を求めるという特徴を有することから、設置管理許可期間の延伸や建蔽率緩和など、事業者が公募対象公園施設を都市公園に設置し、運営しやすくするための法の特例措置が設けられている。三鷹中央防災公園・元気創造プラザ施設運営においても、Park-PFI の活用が位置付けられている（表 41）。建蔽率の緩和については、市民の交流空間の拡張にも繋がる要素であると思われる。

今後のまちづくりにおいては、“空間”を意識したまちづくりが重要な視点の一つと思われる。

表 41 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 施設運営の基本的な考え方

5 市民ニーズに対応した施設の改修と機能の改善 令和元年度、2 年度の総点検の取り組みの中では、施設改修及び機能改善について、多くの意見・要望が寄せられています。 今後は、これらの意見・要望に基づき、市民参加を図りながら、施設の改修や機能の改善に取り組みます。	
《令和 3 年度以降の方向性》	
元気創造プラザ全体に関する項目	
●共有スペースの改修の検討 ●カフェ・売店等の設置の検討 ●1 階エントランスの床の改修の検討 ●駐輪場・バイク置場の増設の検討	○「ボランティアポイント」の導入等を見据えた券売機の機能向上 ○施設予約システムの改善の検討 ○駐車場の時間枠設定の改善の検討 ○コミュニティバスの利便性向上の検討
総合スポーツセンターに関する項目	
●プール更衣室床の改修の検討 ●プールサイド床等の改修の検討 ●スポーツ団体への貸出倉庫等の設置の検討 ●メインアリーナ南側窓の遮光改修の検討 ●防球ネットの改修の検討 ●競技用ラインの改修の検討	○利用料金回数券の導入の検討 ○スポーツ教室の実施種目や実施方法の検討 ○スポーツエントランスの窓口の改善の検討 ○個人開放の種目や開催曜日の検討
生涯学習センターに関する項目	
●学習室における扉の増設 ●個人利用スペースの拡充の検討	○利用時間枠の見直しの検討 ○キャンセル料の設定方法見直しの検討
三鷹中央防災公園に関する項目	
●未就学児対象遊具の設置の検討	○災害時の車両進入防止への対策の検討 ○Park-PFI（※）の活用による改善の検討
●：施設改修に関する項目 ○：機能改善に関する項目	
※Park-PFI：都市公園における民間資金を活用した新たな整備・管理手法。飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の道路、広場等の整備、改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度。	

出典：三鷹市（2021a）



出典：国土交通省 都市局 公園緑地・景観課（2017）

図 15 Park-PFI のイメージ

4.2 公募入札における価格面への示唆

本研究においては、公共サービス・投資額、いわゆる落札データの“金額”に焦点を当てて研究を進めてきた。このデータベースには、前述のほこみち、Park-PFI に関するデータも多数存在し、これらの事業に関する金額面での一定のデータも抽出することができる。こうした事業は主に公募案件として公告され、採用可否の判断は、事業コンセプト、デザイン、施設整備内容・計画面などの評価だけではなく、整備費や管理運営費などの金額面も評価の対象となる。

活用してきたポータルサイトから、特に Park-PFI に関してはこのようなデータ（10 自治体のサンプル）が抽出でき、金額・価格面の評価割合も収集できた。抽出できたデータを元に整理すると、総点のうち価格点が占める割合は約 10%となっていた。今後の総合評価型の公募時の参考データとなれば幸いである。

4.3 今後の課題

本研究においては、取り上げた 7 つの分野について、『論点集』（三鷹市 2018）で位置付けられた施策が着実に実行され、まちづくりが進められてきていることが窺えた。

満足度と都市指標との相関については、①道路、②公園のインフラについて検証した。このため、使用した都市指標は、“地区”により満足度に差異があるのではないかとという仮説のもと、これと関連が深いと思われる公共空間面積（率）、人口（密度）、交通量（定点調査）、公園面積などの指標を用いてマクロな視点から検証した。相関を見る上でのサンプル数は、満足度調査で把握できる最大 11 地区と多くはなかった。今後は、地区、年齢階層、性別等をクロスした、より多く一定数を設定することができるサンプルでの検討を行い、相関分析の精度を上げていきたい。また、今回はデータ中心の分析であったため、今後インタビューなどの定性的な要素も入れた検証も必要である。

そして、先行研究にもあるように、落札情報から把握した事業規模と自治体の予算とを有機的にリンクするこ

とができれば、自治体計画・施策のより細かい事業進捗率を評価し、自治体の目指すべき将来の姿、グランドデザインの達成へ向けた支援に繋げていくことができると思われる。こうしたシステムを探っていきたい。

[注]

- 1) (株)ズノー（東京都港区）が運営する入札・落札情報提供サービス。2006年3月に国内初の入札情報サービスとして誕生。

官公庁（中央省庁・独立行政法人・地方自治体）がホームページで公表している入札情報・落札情報・予定情報・予算書情報を格納したプラットフォームであり、様々なキーワードで検索、閲覧できるASPサービス。

- 2) 分析用ソフトウェアは、フリーソフトウェアである「KHCoder (Version:3.Beta.06c)」を用いる。KHCoderは、自然言語処理および多変量解析を実行可能であり、テキストマイニング分析で頻用されているソフトウェアである。
- 3) 生活関連経路を構成する道路法による道路のうち、多数の高齢者、障害者等の移動が通常徒歩で行われる道路（国土交通大臣が指定）で、道路の新設又は改築を行う際に道路の移動等円滑化基準（省令）又は地方公共団体の条例への適合義務が生じるもの。

4) 質問形式

三鷹市：あなたは、普段利用している道路が、安全の面とネットワークの面から通行しやすいと思いますか。

（5段階評価：「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらともいえない」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」）

調布市：あなたは、市内の道路について、道路の利用者が目的地まで行きやすく、利便性の高い道路ネットワークが形成されていると思いますか。

（4段階評価：「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」）

府中市：あなたは、次に示す府中市の施策について、どの程度満足していますか？

基本施策：都市基盤の保全・整備（道路や下水道が整備されている）

（5段階評価：「満足」、「まあ満足」、「どちらともいえない」、「やや不満」、「不満」）

武蔵野市：現在の市の施策・事業の実施状況、または今後実施予定の施策・事業に対し、どの程度満足していますか。

施策・事業：交通・道路

（5段階評価：「満足」、「ある程度満足」、「あまり満足していない」、「不満足」、「わからない」）

- 5) これからの公共施設のあり方やその実現に向けたマネジメントの基本的な方向性、建替え・改修の基本的な方針や優先順位の考え方など、老朽化した公共施設の適切な維持保全や建替え等を計画的に進めるための原理・原則となる考え方や方向性を示したビジョン

[文献]

国土交通省、2020、「道路政策ビジョン『2040年、道路の景色が変わる』」

———、2025、「報道発表資料」、国土交通省ホームページ

（2025年2月14日、https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000629.html）

斎藤達三、1988、『自治体経営 情報システムの原理—政策形成の新戦略—』

中島とみ子、2005、『住民満足度概念の展開と政策評価』

中邨良樹、2022、『入札・落札データの基本分析と情報発信に関する研究』

野田遊、2011、『行政サービスに対する満足度の規定要因』

———、2013『市民満足度の研究』東京日本評論社

平井太郎、松尾浩一郎、山口恵子、2022『地域・都市の社会学—実感から問いを深める理論と方法』有斐閣ストゥディア
府中市、2025、「学校施設の老朽化対策」、府中市ホームページ（2025年2月26日、
<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/kosodate/kyoiku/shochugakko/gakkousiseturoukyukataisaku/toire.html>）
三鷹市、2018、『三鷹を考える論点データ集 2018』

[参考文献]

一般社団法人入札総合研究所、2024、『入札白書 2023 年 全国版』
国土交通省、2024a、「人中心の道路空間の創出」
——、2024b、「歩行者利便増進道路（ほこみち）指定一覧」
——、2017、「都市公園の質の向上に向けた Park-PFI 活用ガイドライン」
国民生活審議会調査部会編（1974）『社会指標—よりよい暮らしへの物さし—』大蔵省印刷局
調布市、2022、『調布市民意識調査報告書令和4年度版』
——、2024、「調布市の世帯と人口」、調布市ホームページ
（2024年7月1日取得、<https://www.city.chofu.lg.jp/030040/p017091.html>）
東京都総務局行政都市町村課、2024、「令和6年度市町村当初予算状況」
樋口耕一 中村康則 周景龍、2023、『動かして学ぶ！はじめてのテキストマイニング』ナカニシヤ出版
府中市、2024、「住民基本台帳による人口」、府中市ホームページ（2024年7月1日取得、
<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/gyosei/toke/jyukijinko/jinko.html>）
府中市、2023、『令和5年度総合計画に関する市民意識調査結果』
三鷹市、2018a、「公園・緑地の適切な活用に向けた指針」
——、2011、『第4次三鷹市基本計画策定に向けた市民満足度・意向調査』
——、2015、『第4次三鷹市基本計画第1次改定等に向けた市民満足度・意向調査報告書』
——、2018b、『第4次三鷹市基本計画第2次改定等に向けた市民満足度・意向調査報告書』
——、2023a、『第5次三鷹市基本計画策定に向けた満足度調査』
——、2024a、『第5次三鷹市基本計画』
——、2023b、『三鷹市自治体経営白書』
三鷹市企画部企画経営課、2023、『三鷹市統計データ集 2023』
三鷹市都市再生部まちづくり推進課、2024、「三鷹市内都市計画道路の優先整備路線及び整備状況図」
三鷹市、2018c、「三鷹台駅前周辺地区まちづくり推進地区整備方針」
——、2021a、「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 施設運営の基本的な考え方」
——、2020、『緑と水の基本計画』
——、2021b、「令和3年度各会計決算概要」
——、2024b、「令和5年度各会計決算概要」
武蔵野市、2022、『令和4（2022）年度武蔵野市民意識調査報告書』
——、2024、「人口統計」、武蔵野市ホームページ、（2024年7月1日取得、
<https://www.city.musashino.lg.jp/shiseijoho/tokeishiryo/jinkotokei/index.html>）
文部科学省、2023、「公立学校施設のトイレの洋式化の状況調査」

プロフィール

松藤 宏二（まつふじ こうじ）

一般社団法人 入札総合研究所にて、「入札の見える化」「入札を科学する」をミッションに、官公庁入札に関わる事業者の発展と入札行政の促進、いわゆる透明性・公開性・平等性の3つの促進を目的とし、

- ・官公庁の入札、落札に関する研究
- ・セミナーの開催、並びにそれらの活動を通じて官公庁の入札に関する知識の普及及び啓蒙
- ・官公庁入札に関する教育の振興
- ・『入札白書』の刊行

などを行っている。
